

# 元総社蒼海遺跡群（17街区）

JX日鉱日石エネルギー株式会社店舗建設に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

2016. 1

前橋市教育委員会  
JX日鉱日石エネルギー株式会社  
技研コンサル株式会社

# 元総社蒼海遺跡群 (17街区)

JX日鉱日石エネルギー株式会社店舗建設に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書



2016. 1

前橋市教育委員会  
JX日鉱日石エネルギー株式会社  
技研コンサル株式会社



1 元総社若海道跡群 (17街区) 遠景1 (西から)



2 元総社若海道跡群 (17街区) 遠景2 (南から)



元総社蒼海遺跡群（17街区）遺跡全体写真（上が北）



元総社蒼海遺跡群（17街区）Ⅱ区 道（R-1）全景（南から）

## 例 言

1 本書はJX日鉱日石エネルギーによるガソリンスタンド建設計画に伴う「元総社蒼海遺跡群（17街区）（前橋市0142）」（前橋市遺跡コード：27A201）の発掘調査報告書である。

2 発掘調査の要項は次のとおりである。

遺跡名	元総社蒼海遺跡群（17街区）
調査場所	前橋市元総社町 1804-1・1803、前橋市総社町総社 3097・3098
遺跡コード	27 A 201
発掘整理担当者	橋崎修一郎（技研コンサル株式会社）
調査補助員	松村春樹（技研コンサル株式会社）
発掘調査期間	平成27年6月29日～平成27年8月21日
整理・報告書作成期間	平成27年8月24日～平成27年12月28日

3 本書の原稿執筆は1を藤坂和延（前橋市教育委員会）、他を橋崎が担当した。

4 発掘調査および整理作業参加者は以下の通りである（五十音順）。

発掘調査：新井 寛 榎原義久 遠藤好明 太田英明 加藤知恵子 川野京子 今野妙子 佐藤和彦  
佐藤文江 鈴木靖美 諏訪尤子 高橋一巳 高野フミ子 田部井美砂子 土屋和美 高山勝利  
福井友里恵 松村春樹 矢内朝夫  
整理作業：新井悦子 飯島冬子 諏訪尤子 福島緑子 松村春樹

5 本書における図面写真遺物は、前橋市教育委員会文化財保護課で保管している。

6 下記の機関にご指導ご協力を賜りました。記して謝意を表します。

前橋市教育委員会 上野国府等調査委員会委員ならびに調査部会幹事各位。

## 凡 例

1 挿入中に使用した北は座標北である。

2 挿入に国土地理院発行1/200,000「宇都宮」〔長野〕、1/25,000「前橋」、前橋市発行1/2,500都市計画図を使用した。

3 遺構名称は、竪穴住居：H、土坑：D、土坑墓：DB、火葬跡：KB、竪穴状土坑：TD、縄文土坑：JD、道：R、溝：Wである。

4 遺構遺物実測図の縮尺は原則的に次の通りである。その他各図のスケールを参照されたい。

遺構 竪穴住居・竪穴状遺構・溝：1/60・1/30 土坑墓・火葬跡：1/50 土坑：1/50・1/60  
全体図：1/200・1/250

遺物 土器石製品：1/3・1/4 銭貨：1/1

5 本文及び表中の計測値については（ ）は現存値を、[ ]は復元値を表す。

6 遺構図、遺物実測図のトーン表現は以下の通りである。

遺物 須恵器（還元焰）： 施釉：

7 主な火山降下物等の略称と年代は次の通りである。

As-B（浅間B軽石：1108年）Hr-FP（榛名ニッ岳伊香保テフラ：6世紀中葉）Hr-FA（榛名ニッ岳渋川テフラ：6世紀初頭）As-C（浅間C軽石：3世紀後葉～4世紀前半）

# 目次

巻頭図版 1

巻頭図版 2

例言凡例

I	調査に至る経緯	1
II	遺跡の位置と環境	2
III	調査の方針と経過	7
	1 調査範囲と基本方針	7
	2 調査経過	7
IV	基本層序	7
V	遺構と遺物	9
	1 I区	9
	(1) 竪穴住居	9
	(2) 土坑	12
	2 II区	14
	2面：古代面	14
	(1) 竪穴住居	14
	(2) 土坑：確認トレンチ部	16
	(3) 道	16
	(4) 道下土坑	22
	1面：中世面	23
	(1) 土坑墓	23
	(2) 火葬跡	23
	(3) 土坑	23
	(4) 確認トレンチ	23
	3 III区	37
	(1) 竪穴住居	37
	4 IV区	38
	(1) 竪穴住居	38
	(2) 竪穴土坑	43
	(3) 縄文土坑	43
	(4) 溝	44
VI	発掘調査の成果と課題	46
	1 古代の道	46
	2 中世土坑墓	47

## 挿図目次

Fig.1	元総社青海道跡群 (17街区) の位置	1
Fig.2	周辺道路図	3
Fig.3	元総社青海道跡群 (17街区) 位置図とグリッド設定図	6
Fig.4	基本順序	7
Fig.5	元総社青海道跡群 (17街区) 全体図	8
Fig.6	I区全体図	9
Fig.7	I区H-1・2号住居	10
Fig.8	I区H-3号住居	11
Fig.9	I区土坑	12
Fig.10	I区出土遺物	13
Fig.11	II区2面全体図	14
Fig.12	II区H-1号住居	15
Fig.13	II区確認トレンチ部D-1号土坑平面図・遺物	16
Fig.14	II区R-1検出面	17
Fig.15	II区セクション (1)	18
Fig.16	II区セクション (2)	19
Fig.17	II区セクション (3)	20
Fig.18	II区R-1掘り方平面図	21
Fig.19	II区R-1出土遺物	22
Fig.20	II区R-1下土坑セクション	22
Fig.21	II区1面全体図	23
Fig.22	II区1面DB-1・2・13号土坑墓、KB-1号火葬墓、D-2・6・9号土坑	25
Fig.23	II区1面DB-19・23・25・26号土坑墓、KB-3火葬墓	26
Fig.24	II区1面DB-3・11号土坑墓、KB-2火葬墓、D-1・7・8号土坑	27
Fig.25	II区1面DB-4・10・18号土坑墓	28
Fig.26	II区1面出土遺物 (1)	29
Fig.27	II区1面出土遺物 (2)	30
Fig.28	II区1面出土遺物 (3)	31
Fig.29	II区1面出土遺物 (4)	32
Fig.30	II区1面出土遺物 (5)	33
Fig.31	II区1面出土遺物 (6)	34
Fig.32	III区H-1号住居跡	37
Fig.33	IV区全体図	38
Fig.34	IV区H-1・2号住居、TD-1整穴土坑跡	39
Fig.35	IV区H-3号住居跡	40
Fig.36	IV区H-4・H-5号住居跡	41
Fig.37	IV区H-6号住居跡	42
Fig.38	IV区JD-1縄文土坑・W-1・2号溝	43
Fig.39	IV区JD-1出土遺物	44
Fig.40	IV区出土遺物	45
Fig.41	道路遺構分類	46
Fig.42	波板状凹凸面	46

## 表目次

Tab.1	周辺道路一覧表	4
Tab.2	I区出土遺物観察表	13
Tab.3	II区確認トレンチ部D-1号土坑出土遺物観察表	16
Tab.4	II区R-1出土遺物観察表	22
Tab.5	II区土坑墓・火葬跡・土坑まどめ表	24
Tab.6	II区出土遺物観察表	35
Tab.7	IV区JD-1土坑出土遺物観察表	44
Tab.8	IV区出土遺物観察表	44
Tab.9	群馬県出土中世人骨まどめ表	47

## 写真図版目次

PL.1	I区：H-1全景、H-2全景・カマド全景、H-3全景・焼失部材・貯蔵穴・柱穴
PL.2	II区：変換全景、H-4全景・カマド全景・貯蔵穴全景
PL.3	II区：R-1全景、確認トレンチ部R-1全景・断面、確認トレンチ部D-1全景・近接
PL.4	II区：R-1北壁断面全景・近接、R1北部遠景・近接、R-1北部石敷、R-1北部左右対称の石、作業風景
PL.5	II区：2面R-1掘り方全景、R-1下D-1・D-2・D-3・D-4
PL.6	II区：1面中世墓場全景・東部・中央部・中央部北側・西部、DB-1・DB-4全景
PL.7	II区：1面DB-5・DB-6・DB-7・DB-8・DB-10・DB-23・DB-25・DB-26全景
PL.8	II区：1面KB-1・KB-2・KB-3全景、D-1全景・近接
PL.9	III区：全景、H-1全景・柱穴全景 IV区：東側全景、H-1全景
PL.10	IV区：H-3・H-4・H-5・H-6・W-1・W-2・TD-1全景
PL.11	I区：H-2・H-3・表面採集遺物、II区：確認トレンチ部D-1、1面DB-1・DB-3、2面R-1下出土遺物II区1面DB-1・DB-3
PL.12	II区1面：DB-4・DB-8・DB-9・DB-10・DB-12・DB-21・DB-22・DB-25・DB-26・D-1・D-9出土遺物
PL.13	II区1面：KB-1・KB-2・KB-3、遺構外・表面採集出土遺物
PL.14	IV区：H1・H3・H5・H6・JD1・表面採集出土遺物



## II 遺跡の位置と環境

**1 遺跡の位置** (Fig.1) 本調査地は、前橋市街地から利根川を隔て、西へ約2kmの地点、前橋市元総社町及び同総社町域内に所在する。西側には関越自動車道が南北に、南側には国道17号、主要地方道前橋・群馬・高崎線が東西に、また東には市道大友・石倉線が南北にそれぞれ走っている。本調査地の立地する地形は、前橋台地上、榛名山麓をその源とする牛池川、染谷川が開析し、その形成した細長い微高地との比高3～5mを測る。遺跡が立地する台地上は主として畑地として利用されているが、本遺跡地の所在する周辺地は近年住宅地が立ち並ぶ中心地にあたる。

**2 歴史的環境** (Fig.2・Tab.1) 本遺跡が立地する元総社地域には上野国府推定地や上野国分寺・国分尼寺を中心に連続と遺跡が広がる地域である。周辺では、関越自動車道建設や区画整理事業などに伴う発掘調査が行われており、多くの遺構が確認されている。本遺跡周辺地域における時代毎の遺跡の概要は以下の通りである。

(1) 縄文時代 八幡川右岸の微高地上に産業道路東 [15]・産業道路西 [16]・総社関泉明神北Ⅲ遺跡 [61]、本遺跡の立地する牛池川右岸台地上に上野国分僧寺・尼寺中間地域 [22]・元総社小見Ⅲ遺跡 [59]・元総社蒼海遺跡群 [24] 等が挙げられ、竪穴住居跡が確認されている。

(2) 弥生時代 日高遺跡 [18] [19]・上野国分僧寺尼寺中間地域 [22]・正観寺遺跡 [21] 等があるが、その分布は散在的である。この内、日高遺跡では浅間C軽石下の水田跡が確認されており、弥生時代後期から古墳時代前期にかけて継続して営まれた水田と捉えられている。

(3) 古墳時代 古墳時代になると、本遺跡周辺地域は県内でも中心的な地域である。それを示すものとして総社古墳群が挙げられ、古墳時代後期・終末期に至り、王山古墳 [7]・総社二子山古墳 [12]・愛宕山古墳 [10]・宝塔山古墳 [13]・蛇穴山古墳 [8] 等の首長墓が多数築造された。この時期の集落は牛池川と染谷川に挟まれた台地上に展開しているが、前期～中期の集落は散見される程度で、後期からの集落増加が看取できる。

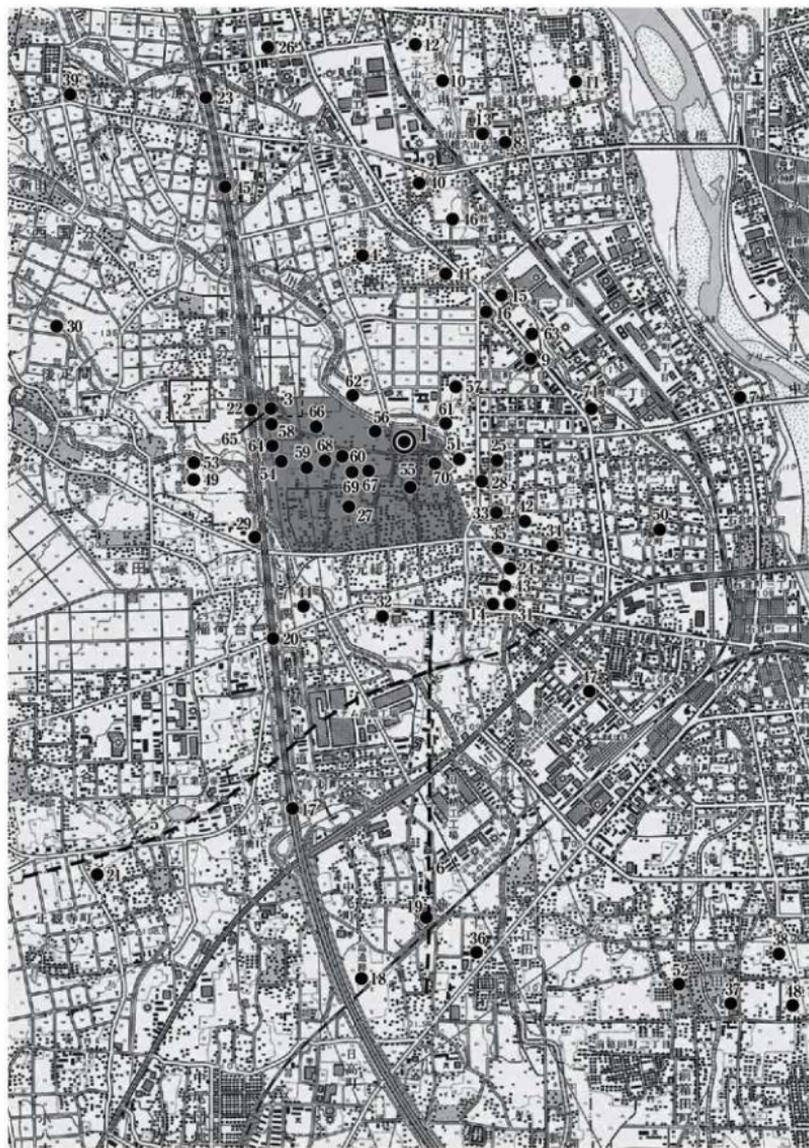
(4) 奈良・平安時代 本遺跡周辺は、上野国分寺 [2]・国分尼寺 [3]・山王廃寺 [4] の建設に示されるように古代の政治・経済・文化の中心地として再編成される。

《上野国府》上野国府は本遺跡付近の区域に約900m四方に推定され、関連遺跡として元総社小学校校庭遺跡 [14]・元総社寺田遺跡 [43]・元総社宅地遺跡 [55] 等がある。元総社小学校校庭遺跡では県下最大級の掘立柱建物跡が検出され、元総社寺田遺跡では「国府」・「曹司」・「国」・「邑野」等の墨書土器や人形が出土している。また元総社明神遺跡 [24] では南北方向の溝跡、関泉樋遺跡 [25] や元総社蒼海遺跡群 (7)・(9)・(10) では東西方向の溝跡が確認され、国府を考える上で貴重な資料となっている。

《国分僧・尼寺》国分僧寺は大正15年に国指定史跡となり、昭和40年代から部分的な発掘調査が進められるようになった。昭和55年以降には本格的な調査が始まり、主要伽藍の礎石・茶垣・堀等が確認されている。国分尼寺は昭和44・45年のトレンチ調査により伽藍配置が推定され、その後平成12年度に前橋市埋蔵文化財発掘調査団により南辺での寺域確認調査が行われた。調査の結果、南東・南西隅の茶垣とそれに平行する溝跡や道路状遺構等が確認されている。関連遺跡として中尾遺跡 [17] で神社遺構、鳥羽遺跡 [20] で工房跡が確認され、上野国分僧寺・尼寺中間地域 [22] では大規模な集落・掘立柱建物跡群が検出されている。

《山王廃寺》山王廃寺は昭和3年に日枝神社境内が「山王塔址」として国指定史跡となり、その後昭和49～56年にかけて7次にわたる本格的な発掘調査が行われた。この調査で金堂の検出および「放光寺」甕の平瓦出土により山王廃寺が「山ノ上碑」「上野国交替実録帳」にみられる「放光寺」であることが有力視されるようになった。

平成9～11年の調査でも土坑から大量の塑像が出土し、平成18・19年度調査では北・東・西面、平成20年



■ = 元総社蒼海道跡群

500m 0 500 1000 1500  
1 : 25,000

Fig.2 周辺遺跡園

度調査では南面の回廊を検出している。さらに平成21年度調査では「推定中門」と「西側南側回廊」の周辺部が、平成22年度調査では北西隅の回廊と接するように「基壇建物跡」と「北方建物群」が確認されている。なお、この寺の塔心礎や石製鶏尾、根巻石等の石造遺物は宝塔山古墳の石棺や蛇穴古墳の石室と同系統の石造技術によるものと考えられており、仏教文化と古墳文化とが併存しながら機能していた様子が窺える。

また本遺跡近郊にはN64°-E方向に東山道(国府ルート)が、日高遺跡[19]では幅約4.5mの推定日高道が国府方向へ延びると推定されている。これらは当時の交通網を物語る重要な遺構である。

当該期の一般的な集落は、古墳時代と同様に牛池川と染谷川に挟まれた台地上に立地するが、国府推定域の中心部での分布は少なく、国府域と居住域の区分けが看取できる。近年の調査による元総社蒼海遺跡群(41)では鍛冶工房が検出され、金の付着した灰陶輪器や奈良三彩といった貴重な遺物が出土している。対照的に、集落の分布は多いものの本遺跡周辺での生産遺跡の分布は希薄なものとなっている。

室町時代になると上野国守護上杉氏から守護代に任命された長尾氏が蒼海城を本拠地としこの地を治めた。元総社蒼海遺跡群では蒼海城の堀跡や、南宋～元時代の青白磁梅瓶が出土している。また本遺跡周辺には屋敷に堀を巡らした城館跡が数多く認められる。天正年間以降は諏訪・秋元氏が蒼海城に入り当地の領主となるが、秋元氏が総社城に移ると同時に蒼海城は廃城となった。また、当該期の周辺遺跡では大波道場遺跡[71]の貨幣埋納遺構から572枚に及ぶ銭貨が熱紐を通した「緋」の状態で大層出土している。

Tab. 1 周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	調査年度	時代・主な遺構・出土遺物
1	元総社蒼海遺跡群 17 街区	2015	本遺跡
2	上野国分寺跡(群鳥居敷)	1980～1983	奈良; 金堂基壇、塔基壇
3	上野国分寺跡	(1999)	奈良; 西階廊、東曲隅基壇
4	山王堀寺跡	(1946)	奈良; 塔心礎、根巻石、金堂基壇、講堂基壇、回廊礎石
5	薬山寺(推定)	-	-
6	日高遺跡	-	-
7	玉山古墳	1972	古墳; 前方後円墳(6C中)
8	船穴山古墳	1975	古墳; 方墳(7C末)
9	稲藪山古墳	1988	古墳; 円墳(6C後半)
10	愛宕山古墳	1996	古墳; 円墳(7C後半)
11	遠見山古墳	未調査	古墳; 前方後円墳(5C後半)
12	総社二子山古墳	未調査	古墳; 前方後円墳(6C末)
13	瓦塚山古墳	未調査	古墳; 方墳(7C後半)
14	元総社小学校校舎遺跡跡	1962	平安; 掘立柱建物・柱穴群、礎礎
15	産米遺跡西遺跡	1966	縄文; 住居
16	産米遺跡西遺跡	-	縄文; 住居
17	中尾遺跡(群鳥居敷)	1976	奈良; 平安; 住居
18	日高遺跡(群鳥居敷)	1977	弥生; 赤土、方形基礎溝、住居、本殿瓦葺、平安; 金堂新水田
19	日高遺跡(高岡山)	(1978)	弥生; 赤土
20	鳥山遺跡(群鳥居敷)	1978～1983	古墳; 住居、観音堂、奈良; 平安; 住居、掘立柱建物(神庫)
21	正観寺遺跡跡一帯(高岡山)	1979～1981	弥生; 住居、古墳; 住居、奈良; 平安; 住居、中殿、講
22	上野国分寺・足守中殿地蔵(群鳥居敷)	1980～1983	縄文; 住居、掘立柱建物、弥生; 住居、方形基礎溝、古墳; 住居、奈良; 平安; 住居、掘立柱建物、中殿、掘立柱建物、炭灰遺構、道路状遺構
23	北原遺跡(群鳥居敷)	1982	縄文; 土坑、魚骨遺構、古墳; 赤土、奈良; 平安; 住居、掘立柱建物
24	元総社明神遺跡跡一又五	1982～1996	奈良; 住居、赤土、奈良; 奈良; 平安; 住居、講、中殿; 住居、講
25	関原遺跡	1983	奈良; 平安; 講
26	梅木遺跡、井遺跡	1983、1988	奈良; 平安; 住居、講
27	尊作遺跡	1984	古墳; 住居、平安; 住居、中殿、春日
28	関原遺跡遺跡	1985	古墳; 住居、奈良; 平安; 講
29	塚田村堂遺跡(群鳥居敷)	1985	平安; 住居
30	後之野遺跡跡一且(附馬術)	1985～1987	古墳; 住居、奈良; 平安; 住居、中殿、道路状遺構
31	寺田遺跡	1986	平安; 講
32	九井遺跡、井遺跡	1986、1988	奈良; 平安; 住居
33	原野遺跡、井遺跡	1986、1995	古墳; 住居、平安; 住居、中殿、堀、石敷遺構
34	津路遺跡	1987	奈良; 平安; 住居、講
35	大丸屋敷遺、井遺跡	1987	古墳; 住居、平安; 住居、講、地下式土坑
36	藤川遺跡	1987	平安; 赤土
37	村田遺跡	1987	平安; 掘立柱建物、赤土
38	赤石田遺跡	1987	平安; 赤土
39	畑野分遺跡	1988	縄文; 住居、平安; 住居、講
40	村東遺跡	1988	古墳; 住居、講、奈良; 平安; 住居、中殿、堀
41	昌東寺南側遺跡、井遺跡	1988	奈良; 平安; 住居
42	原野井遺跡	1988	平安; 住居
43	元総社寺田遺跡跡一且(群鳥居敷)	1988～1991	古墳; 赤土、講、奈良; 平安; 住居、中殿、講
39	畑野谷田、井遺跡	1989	平安; 住居
44	院野遺跡、井遺跡	1989、1995	古墳; 住居、平安; 住居
45	関中遺跡(群鳥居敷)	1990	古墳; 住居、奈良; 平安; 住居
46	関分堀井遺跡	1991	古墳; 住居、奈良; 平安; 住居

番号	路線名	開業年度	時代・主な遺構・出土遺物
45	元分堀遺跡（野馬町）	1990	古墳・住居・倉庫・平安・住居・土坑墓
46	大塚敷遺跡（一宮）	1992～2000	縄文・住居・古墳・住居・倉庫・平安・住居・中世・竪穴式建物・地下式土坑・溝
47	元能村新田遺跡	1993	縄文・土坑・平安・住居・瓦葺
48	五反田遺跡	1995	平安・水田
49	上野国分寺参道遺跡	1996	古墳・住居・平安・住居
50	大友地池遺跡	1998	平安・水田
51	能村岡崎町神止遺跡	1999	古墳・池・水田・溝・中世・溝
52	能村山内遺跡	1999	古墳・溝状遺構・平安・水田
53	元能村西川遺跡（野馬町西）	2000	古墳・住居・倉庫・倉庫・平安・住居・溝
54	元能村小見遺跡	2000	縄文・住居・古墳・住居・倉庫・平安・住居・竪穴式建物・溝・道路状遺構
55	元能村北山遺跡（一宮トロンチ）	2000	古墳・平安・住居・竪穴式建物・溝・池・溝・道路状遺構・中世・溝・近世・住居
56	元能村小見内遺跡	2001	古墳・住居・溝・倉庫・平安・住居・竪穴式建物・溝・中世・竪穴式建物・溝
57	能村甲種商業大道西遺跡	2001	倉庫・平安・住居・溝・中世・池・瓦葺・溝
57	能村甲種商業大道西遺跡	2001	古墳・住居・倉庫・平安・住居・溝・近世・溝
51	能村岡崎町神止遺跡	2001	古墳・住居・溝・平安・住居・溝
58	元能村小見遺跡	2002	縄文・住居・古墳・住居・倉庫・平安・住居・竪穴式建物・中世・溝・道路状遺構
59	元能村小見遺跡	2002	縄文・住居・古墳・住居・倉庫・平安・住居・竪穴式建物・中世・溝・道路状遺構
59	能村新田遺跡	2002	古墳・住居・倉庫・平安・住居・中世・溝
60	元能村小見内遺跡	2002	倉庫・平安・住居・竪穴式建物・溝・中世・土坑墓
61	能村甲種商業大道西遺跡	2002	古墳・住居・倉庫・平安・住居・溝・溝
61	能村岡崎町神止遺跡	2002	縄文・住居・古墳・住居・倉庫・平安・住居
62	元能村北山遺跡（野馬町西）	2002～2004	古墳・水田・倉庫・平安・住居・池・中世・竪穴式建物・水田・火葬跡
63	極楽寺遺跡（野馬町西）	2003	古墳・住居・倉庫・平安・住居・溝・壱輪埴輪器類・舟口
64	元能村小見遺跡	2003	縄文・住居・古墳・住居・倉庫・平安・住居・中世・溝
65	元能村小見内遺跡	2003	縄文・住居・古墳・住居・倉庫・平安・住居・平安・竪穴式建物
61	能村甲種商業大道西遺跡	2003	古墳・池・中世・池
61	元能村小見内遺跡	2003	倉庫・平安・住居・溝・中世・舟口
66	元能村小見内遺跡	2003	縄文・住居・倉庫・平安・住居・竪穴式建物・中世・池・溝
67	元能村小見内遺跡	2003	倉庫・平安・住居・溝・中世・竪穴式遺構
64	元能村小見内遺跡	2004	縄文・住居・古墳・住居・倉庫・平安・住居
68	元能村小見内遺跡	2004	倉庫・平安・住居・中世・溝
69	元能村小見内遺跡	2004	倉庫・平安・住居・中世・溝
69	元能村小見内遺跡	2004	古墳・住居・倉庫・平安・住居・工房・船工採取坑・中世・溝・土坑墓
61	能村岡崎町神止遺跡	2004	古墳・水田・倉庫・平安・住居
60	大塚敷遺跡	2004	古墳・水田・平安・住居・中世・竪穴式建物・地下式土坑・土坑墓・火葬跡・溝・竪穴式遺構
-	元能村善海遺跡(1)	2005	倉庫・平安・住居・溝・中世・土坑墓
-	元能村善海遺跡(2)	2005	倉庫・平安・住居・溝・中世・土坑墓
-	元能村善海遺跡(3)・元能村小見遺跡	2005	縄文・住居・古墳・住居・倉庫・平安・住居
-	元能村善海遺跡(4)	2005	縄文・住居・古墳・住居・倉庫・平安・住居
-	元能村善海遺跡(5)	2005	古墳・住居・倉庫・平安・住居・溝・中世・壱輪埴輪器類・土坑墓
-	元能村善海遺跡(6)	2005	倉庫・平安・住居・溝・中世・土坑墓
-	元能村善海遺跡(7)	2005	倉庫・平安・住居・溝
-	元能村善海遺跡(8)	2006	倉庫・平安・住居
-	元能村善海遺跡(9)・(10)	2006	縄文・住居・古墳・住居・倉庫・平安・住居・竪穴式建物・溝・土坑・中世・溝
-	元能村善海遺跡(11)	2006	古墳・住居・倉庫・平安・住居・中世・道路状遺構・中世・溝
-	元能村善海遺跡(12)	2006	古墳・住居・倉庫・平安・住居・中世・舟口
-	元能村善海遺跡(13)	2008	縄文・住居・古墳・住居・倉庫・平安・住居・工房・中世・溝・土坑墓
-	元能村善海遺跡(14)	2008	古墳・住居・水田・倉庫・平安・住居・竪穴式建物・中世・溝・竪穴式遺構・舟口
-	元能村善海遺跡(15)	2008	倉庫・平安・住居・溝・中世・溝
-	元能村善海遺跡(16)	2008	倉庫・平安・住居・溝・中世・溝
-	元能村善海遺跡(17)	2008	古墳・住居・倉庫・平安・住居・竪穴式遺構・中世以降・土坑墓・舟口・不明・住居・溝
-	元能村善海遺跡(18)	2008	平安・住居
-	元能村善海遺跡(19)	2008	古墳・小石敷水田・中世・舟口
-	元能村善海遺跡(20)	2008	古墳・住居・倉庫・平安・住居・竪穴式遺構・中世・土坑墓・溝
-	元能村善海遺跡(21)	2009	中世・善海城の堀・盛土状遺構
-	元能村善海遺跡(22)	2009	古墳・住居・倉庫・平安・住居
-	元能村善海遺跡(23)	2009	古墳・住居・平安・土坑・中世・善海城の堀
-	元能村善海遺跡(24)	2009	縄文・住居・古墳・住居・倉庫・平安・住居・竪穴式遺構・中世・瓦葺竪穴・舟口
-	元能村善海遺跡(25)	2009	古墳・住居・平安・住居・中世・南東一宮時代の善白磁器瓦葺器体
-	元能村善海遺跡(26)	2009	倉庫・平安・住居・溝・中世・溝・土坑墓
-	元能村善海遺跡(27)	2009	古墳・住居・盛土状遺構・古代・住居・竪穴式建物・竪穴式遺構・中世・堀・竪穴式遺構
-	元能村善海遺跡(28)	2009	古墳・住居・溝・古代・住居・竪穴式遺構・中世・堀
-	元能村善海遺跡(29)	2009	古墳・平安・住居・中世・竪穴式建物・土坑墓・火葬跡・地下式坑・善海城の堀跡
-	元能村善海遺跡(30)	2009	古墳・住居・平安・住居・中世・道路状遺構・土坑墓・火葬跡・堀跡
-	元能村善海遺跡(31)	2009	古墳・住居・中世・道路状遺構・善海城の堀跡
-	元能村善海遺跡(32)・(33)	2010	古墳・住居・倉庫・平安・住居・溝・中世・住居・竪穴式遺構・溝・舟口
-	元能村善海遺跡(34)	2010	倉庫・平安・住居・中世・堀・竪穴式遺構
-	元能村善海遺跡(35)	2010	縄文・住居・古墳・住居・倉庫・平安・住居・竪穴式建物・盛土内土層跡・中世・土坑墓・堀
-	元能村善海遺跡(36)	2010	古墳・平安・土坑墓・水田・壱輪埴輪器類・中世・堀
-	元能村善海遺跡(37)	2011	古墳・住居・平安・住居・溝・中世・溝
-	元能村善海遺跡(38)	2012	古墳・倉庫・平安・住居・土坑・中世・溝
-	元能村善海遺跡(39)	2012	古墳・住居・倉庫・溝・平安・土坑・中世・ピット・舟口
-	元能村善海遺跡(40)	2013	縄文・住居・古墳・倉庫・平安・住居・竪穴遺構・中世以降・舟口
-	元能村善海遺跡(41)	2013	縄文・住居・古墳・住居・倉庫・平安・住居・竪穴式建物・中世・竪穴式建物・道路状遺構
-	元能村善海遺跡(42)	2013	遺構無し
-	元能村善海遺跡(43)	2013	倉庫・平安・住居
-	元能村善海遺跡(44)	2013	平安・住居・中世・堀
-	元能村善海遺跡(45)	2013	古墳・住居・平安・住居・中世・堀・地下式坑
-	元能村善海遺跡(46)	2013	平安・住居・中世・舟口
-	元能村善海遺跡(47)	2013	中世・溝・舟口
-	元能村善海遺跡(48)	2013	倉庫・平安・住居・溝・中世・溝・土坑墓
-	元能村善海遺跡(49)	2013	平安・住居・中世・舟口
-	元能村善海遺跡(50)	2013	平安・住居・中世・舟口
-	元能村善海遺跡(51)・(55)・(66)・(68)	2013	倉庫・平安・住居・溝・土坑・舟口・竪穴式遺構
-	元能村善海遺跡(57)・(58)・(59)	2013	平安・住居・溝・中世・溝・竪穴式遺構
-	元能村善海遺跡(60)	2013	倉庫・平安・住居・溝・中世・溝・土坑墓

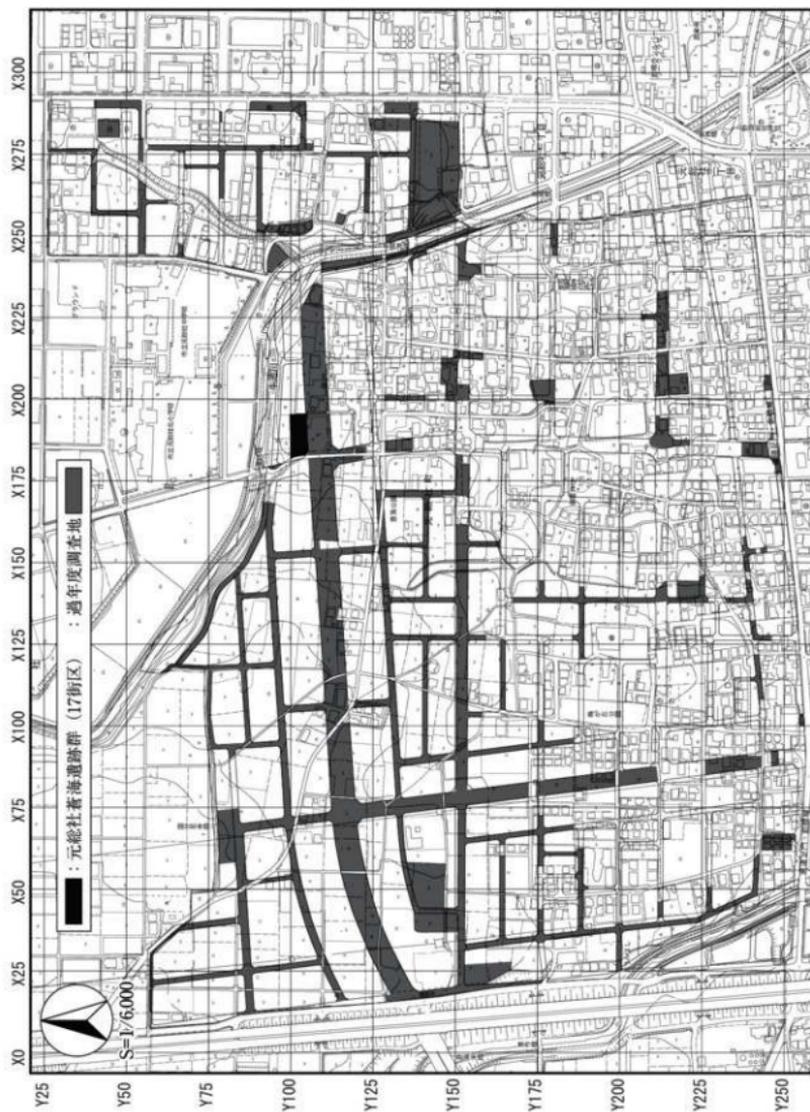


Fig.3 元総社着海遺跡群 (17街区) 位置図とグリッド設定図

### Ⅲ 調査の方針と経過

#### 1 調査範囲と基本方針

発掘調査は、遺構確認面まで重機（0.45 バックホー）による表土掘削を行ない、遺構確認・遺構掘削・遺構精査・測量・写真撮影の手順で実施した。

遺構の記録は、基本的に図面作成をトータルステーション・電子平板を用いて測量及び編集を行い、断面図は一部オルソフォトに変換して編集を行った。記録写真は、35mm モノクロ・35mm カラーリバーサル・デジタルカメラの3種類を用いて撮影し、調査区全景写真は空撮を1回実施した。

#### 2 調査経過

発掘調査は、平成 27 年 6 月 26 日に草刈りを行い、同年 6 月 29 日に調査区Ⅲ及び調査区Ⅳの表土掘削を実施した。同様に、同年 6 月 30 日から 7 月 6 日まで調査区Ⅱ及び調査区Ⅰの表土掘削を実施した。表土掘削以降、順次調査をすすめ、同年 8 月 12 日にラジコンヘリによる調査区全景撮影を実施した。その後、8 月 21 日までに埋め戻し及び撤収作業を完了し、現地での発掘調査を終了した。8 月 24 日より本格的に出土遺物・図面・写真等の整理作業及び報告書作成を実施した。

### Ⅳ 基本層序



Fig. 4 基本層序

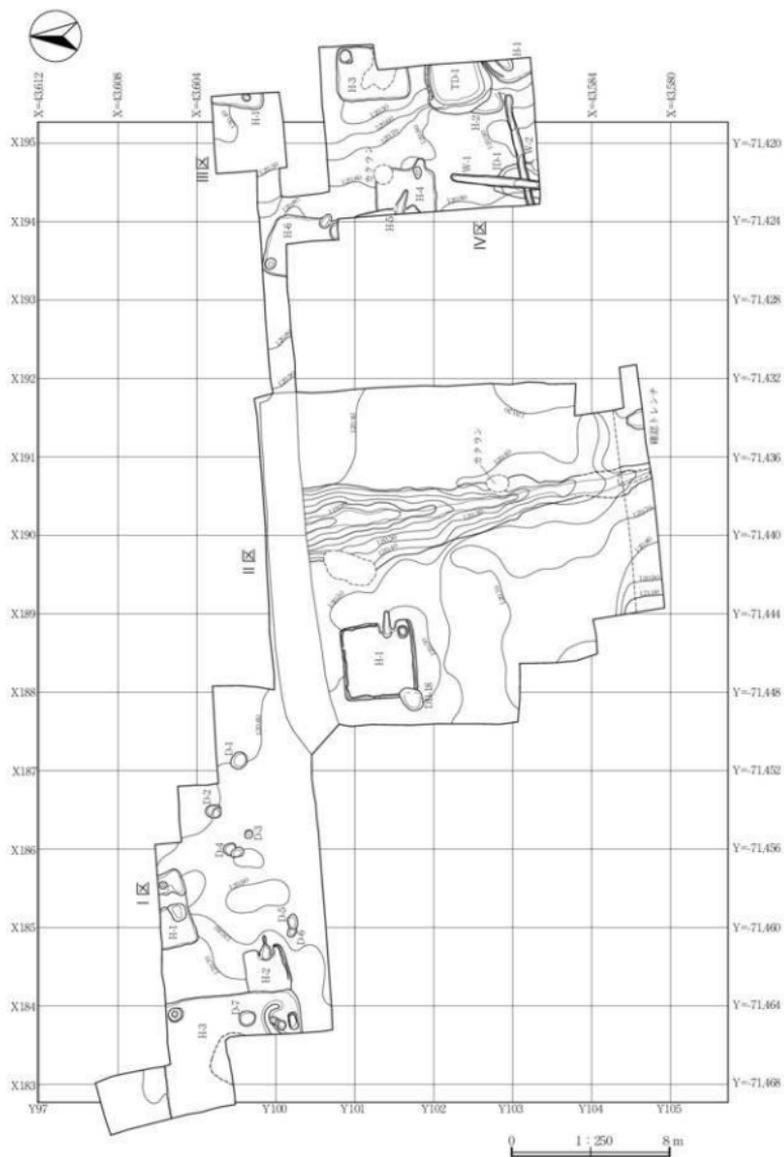


Fig.5 元総社蒼海道路群 (17街区) 全体図

## V 遺構と遺物

### 1 Ⅰ区

Ⅰ区は、ガソリンスタンド建設部内、給油管敷設部・地下タンク部にあたる。前橋市教育委員会による試掘では、住居15軒と土坑1基が想定された。発掘調査の結果、本区では、竪穴住居3軒・土坑7基が検出された。なお、当初、本区南部が調査された際に元総社小見内Ⅲ遺跡6区及び同遺跡の南部の元総社蒼海遺跡(32)2区で検出された南北に走行するW-1(溝)が本遺跡でも検出されると想定されたが、同溝の東側がわずかに約10cmかかっていた程度であった。主体部は、西側の調査区外にあると推定される。

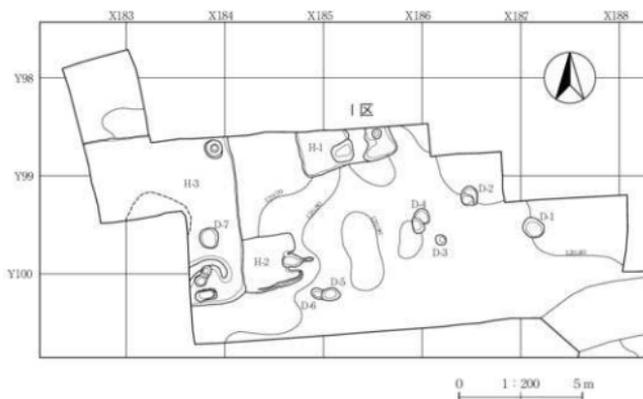


Fig.6 Ⅰ区全体図

#### (1) 竪穴住居

竪穴住居は、H-1号からH-3号まで3軒が検出された。しかしながら、確認面までは浅く、上部はかなり削平されている状態である。

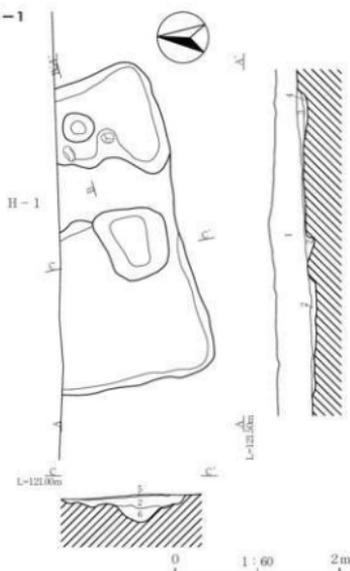
##### H-1号住居 (Fig.7・PL.1)

位置 X184・185、Y98・99 規模 東西(3.8m)、南北(1.8)m、壁現高0.1～0.15m。住居の南部約1/2が検出されている。面積 5.77㎡。床面 締まりやや強い。重複 認められない。カマド 住居の東側に検出された。貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず。ただ、用途不明土坑が住居南部に検出された。出土遺物 覆土中より土師器環及び甕が検出されたが、いずれも破片で掲載せず。時期 出土遺物の傾向から6世紀後半と推定される。

##### H-2号住居 (Fig.7・PL.1)

位置 X184、Y99・100 規模 東西(2.1)m、南北(2.2)m、壁現高0.1～0.15m。面積 4.78㎡。重複 西部で一部H-3号住居と重複が認められた。カマド 住居の東側に検出された。貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず。出土遺物 覆土中より土師器環・土師器瓶・土師器甕・土師器小壺が検出された。これらの中、比較的残存状態が良い土師器環を図化した。時期 出土遺物の傾向から7世紀と推定される。

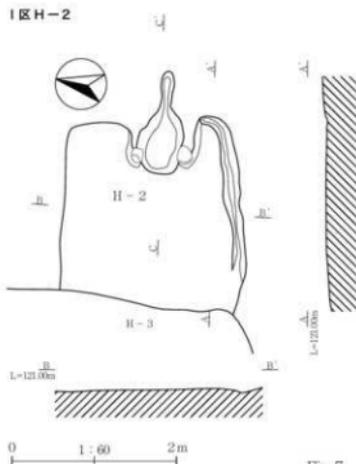
I区H-1



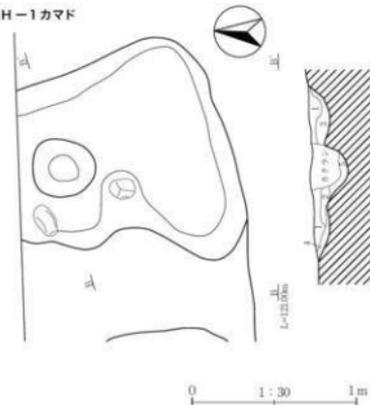
I区H-1号住居 A

- 5 黒褐色土 (10Y2/2) 黒褐色土ブロック (30-50cm) を敷き含む、締まりや強い、粘性弱い。
  - 6 黒褐色土 (10Y2/2) 黒褐色土ブロック (30-50cm) を少量、に赤褐色土ブロック (30-50cm) を敷き、締まりや強い、粘性弱い。
- I区H-1号住居 C
- 1 黒褐色土 (10Y2/2) 黒褐色土ブロック (30-50cm) を中量、小峰 (0.3-0.5cm) を中量含む、締まり強い、粘性弱い、底面直上。
  - 2 黒褐色土 (10Y2/2) 赤褐色土ブロック (30-50cm) を敷き、小峰 (0.1-0.3cm) を敷き含む、締まり強い、粘性弱い。
  - 3 に赤褐色土 (10Y2/2) 粘土を敷き、黒褐色土を敷き含む、締まりや強い、粘性弱い。
  - 4 黒褐色土 (10Y2/2) 小峰 (0.1-0.3cm) を敷き含む、締まりや強い、粘性弱い。

I区H-2



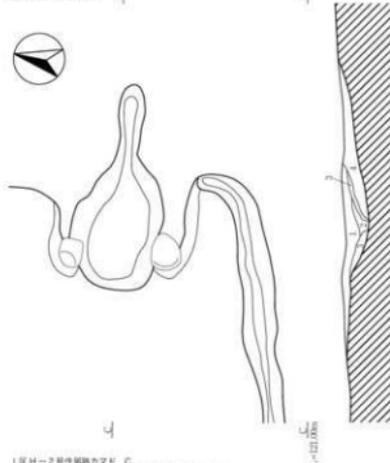
I区H-1カマド



I区H-1号住居カマド 基

- 1 黒褐色土 (10Y2/2) 焼土粒 (0.3-0.5cm) を敷き、小峰 (0.3-0.5cm) を敷き含む、締まりや強い、粘性やや強い。
- 2 黒褐色土 (10Y2/2) 焼土上層、褐色砂利土を敷き含む、締まりや強い、粘性弱い。
- 3 黒褐色土 (10Y2/2) 灰を敷き、小峰 (0.3-0.5cm) を敷き含む、締まりや強い、粘性弱い。
- 4 黒褐色土 (10Y2/2) 黒褐色土を少量含む、締まりや強い、粘性弱い。
- 5 黒褐色土 (10Y2/2) 黒褐色土を敷き含む、締まりや強い、粘性弱い。

I区H-2カマド



I区H-2号住居カマド C

- 1 赤褐色土 (10Y3/2) 焼土粒 (0.1-0.3cm) を敷き含む、締まり強い、粘性やや強い。
- 2 黒褐色土 (10Y2/2) 焼土粒 (0.3-0.5cm) を敷き含む、締まり強い、粘性弱い。
- 3 黒褐色土 (10Y2/2) 焼土粒 (0.1-0.3cm) を敷き含む、締まり強い、粘性弱い。
- 4 に赤褐色土 (10Y3/2) 小峰 (0.1-0.3cm) を敷き含む、締まり強い、粘性弱い。

Fig.7 I区H-1・2号住居



## (2) 土坑

土坑が7基検出された。出土遺物がなく、時期の特定はできなかった。その他の土坑も検出されたが、覆土中にプラスチック片等現代の遺物が含まれていたたり、土坑底面に重機の爪跡が検出されたりして現代の攪乱と推定されるものも検出されている。それらの現代の攪乱は除外した。

### D-1号土坑 (Fig. 6・9)

位置 X187・Y99 形状 隅丸方形 規模 長軸0.88m・短軸0.74m・深さ0.4m 重複 無し

### D-2号土坑 (Fig. 6・9)

位置 X186・Y99 形状 隅丸方形 規模 長軸0.78m・短軸0.66m・深さ0.44m 重複 無し

### D-3号土坑 (Fig. 6・9)

位置 X186・Y99 形状 円形 規模 直径0.42m・深さ0.3m 重複 無し

### D-4号土坑 (Fig. 6・9)

位置 X185・Y99 形状 円形? 規模 長軸1.0m・短軸0.68m・深さ0.5m 重複 2基の土坑が重複

### D-5号土坑 (Fig. 6・9)

位置 X185・Y100 形状 楕円形 規模 長軸0.76m・短軸0.5m・深さ0.14m 重複 D-6と重複。新田完形はD-5の方が新しい

### D-6号土坑 (Fig. 6・9)

位置 X184・Y100 形状 楕円形? 規模 長軸(0.42m)・短軸0.4m・深さ0.14m 重複 D-5と重複。新田完形はD-6の方が古い

### D-7号土坑 (Fig. 6・9)

位置 X184・Y99 形状 円形 規模 直径0.76m～0.8m・深さ0.7m

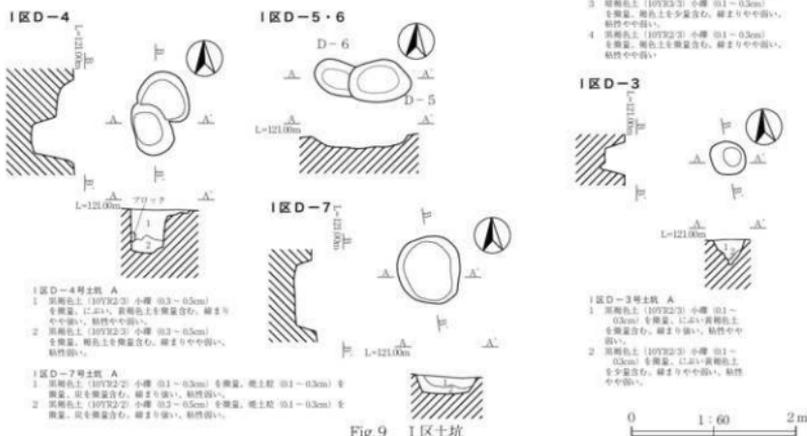


Fig.9 I 区土坑

## I区H-2



1 (1/3)



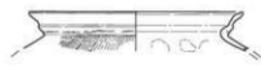
2 (1/3)



3 (1/3)

※トーンは漆

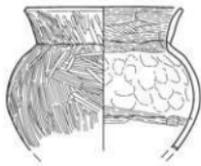
## I区H-3



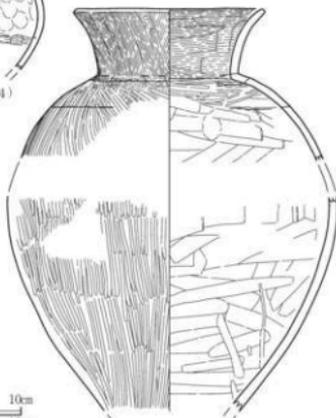
1 (1/4)



2 (1/3)



3 (1/4)



4 (1/4)



Tab.2. I区出土遺物観察表

I区H-2										
No	出土位置	種別・器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	胎土	焼成	色調	器形・成・整形、文様等の特徴	現状・備考
1	No.3-1(覆土)	土師器 杯	[132]	-	6.8	白色粒 雲母を含む	良好	赤褐色 5YR 4/6	外面：口縁部・ヨコナテ 以下ヘラケズリ 内面：口縁部・ヨコナテ 以下ユビナテ	1/4残存
2	No.3-2(覆土)	土師器 杯	[135]	-	6.2	雲母を含む	良好	褐色 7.5YR 6/6	外面：口縁部・ヨコナテ 以下ヘラケズリ 内面：口縁部・ヨコナテ 以下ユビナテ	破片
3	No.3-3(覆土)	土師器 杯	[100]	-	6.4	雲母を含む	良好	赤褐色 5YR 6/6	外面：口縁部・ヨコナテ 以下ヘラケズリ 内面：口縁部・ヨコナテ 以下ユビナテ	1/4残存
I区H-3										
No	出土位置	種別・器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	胎土	焼成	色調	器形・成・整形、文様等の特徴	現状・備考
1	覆土	S字美 杯	[172]	-	(32)	白色粒を含む	良好	1.5R・黄色 2.5Y 6/3	外面：口縁部ヨコナテ 以下ユビナテ 内面：口縁部ヨコナテ 以下ユビオキサシ	破片
2	覆土	土師器 杯	[122]	[39]	5.2	赤色粒を含む	良好	明褐色 7.5YR 5/6	外面：土ガキ 内面：土ガキ	1/4残存
3	ビットNo.2	土師器 小壺	125	-	(117)	雲母を含む	良好	明褐色 7.5BR 5/6	外面：口縁部～胴下部ハケナテ 内面：口縁部ハケナテ 胴上部ヨコナテ 以下ヘラケズリ	1/3残存
4	ビットNo.3	土師器 壺	15.1	-	[328]	白色粒 赤色粒を含む	良好	明褐色 7.5BR 5/6	外面：口縁部ハケナテ 以下ミガキ 内面：口縁部ハケナテ 胴上部ヨコナテ 以下ヘラケズリ 腹ユビナテ	1/3残存
I区表面採集										
No	出土位置	種別・器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	胎土	焼成	色調	器形・成・整形、文様等の特徴	現状・備考
1	表面採集1・2	土師器 杯	133	-	4.8	白色粒 雲母を含む	良好	明褐色 7.5YR 5/6	外面：口縁部ヨコナテ 以下ヘラケズリ 内面：口縁部ヨコナテ 以下ユビナテ	2/3残存
2	表面採集6	瓶蓋部 高台付片	[172]	[76]	7.3	白色粒を含む	良好	赤褐色 5Y 6/2	外面：口縁部ヨコナテ 以下ユビオキサシ 内面：口縁部ヨコナテ 以下ヘラケズリ	1/4残存
3	表面採集3	土師器 瓶	233	102	318	白色粒 雲母を含む	良好	褐色 7.5YR 6/6	外面：口縁部ヨコナテ 以下ヘラケズリ 内面：口縁部ヨコナテ 以下テラケズリガキ	2/3残存

Fig.10 I区出土遺物

## 2 II区

II区は、ガソリンスタンド建設部の内、給油管敷設部及びキャノピー部にあたる。前橋市教育委員会による試掘では、住居4軒・土坑3基・溝1条・道路1条が想定された。但し、本区には元々現代の住居が建っており、住居の基礎構築の際、また、住居に伴う土管や水道管敷設の際に上面が削平あるいは擾乱を受けていた。本区では、1面の中世面と2面の古代面とに分かれる。2面の古代面では、住居1軒・道1条・道下土坑4基が検出された。1面の中世面は、試掘では検出されなかった中世墓群が発掘区の中央部より検出された。土坑墓25基・火葬跡3基・土坑9基が検出されている。この中世墓群は、25基が検出されており群馬県内でも有数のものである。元総社蒼海道跡群としては、元総社蒼海道跡群(5)で、土坑墓70基・火葬跡2基の合計72基が検出されている。

### 【2面：古代面】

2面の古代面では、住居(H)1軒・道(R)1条・道下土坑(R-1下)4基が検出された。また、R-1の状況を確認するため、調査区南の調査区外域に確認トレンチを入れ、道1条と土坑1基を検出した。

#### (1) 竪穴住居

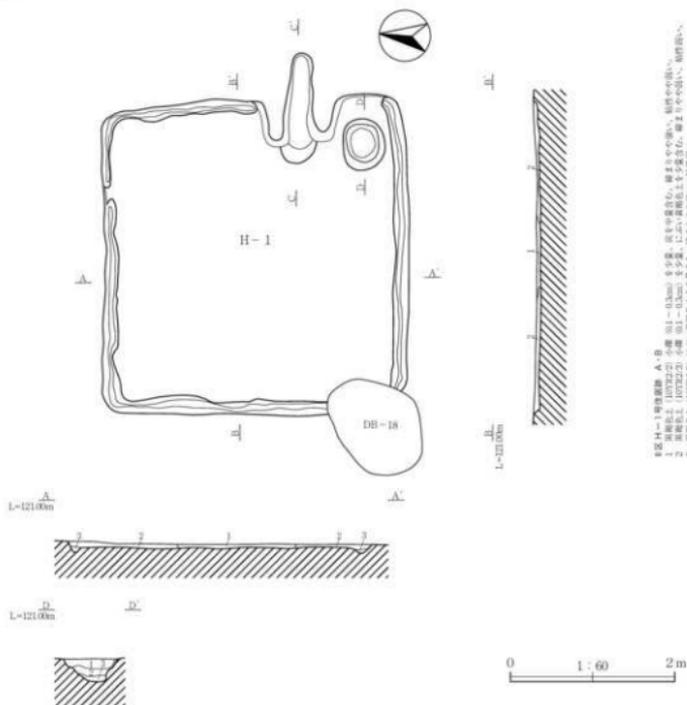
##### H-1号住居 (Fig.11・12・PL.2)

位置 X187・188・189、Y100・101 規模 東西5.75m、南北5.6m、壁現高0.1m。住居の全面が検出されている。面積 1371㎡ 床面 締まりやや弱い。重複 住居の南西部隅で、中世の土坑墓D B-18と重複している。新旧完形は、本住居の方が古い。カマド 東側に検出されている。貯蔵穴 カマドの南、住居の南東隅で検出されている。柱穴 検出されず。但し、住居の四辺に周溝が検出されている。出土遺物 住居の覆土から、S字状口縁台付甕(S字甕)・土師器甕が、貯蔵穴から土師器甕が検出されている。但し、いずれも破片であるため図化せず。時期 時期の特定には至らなかった。



Fig.11 II区2面全体図

II区H-1

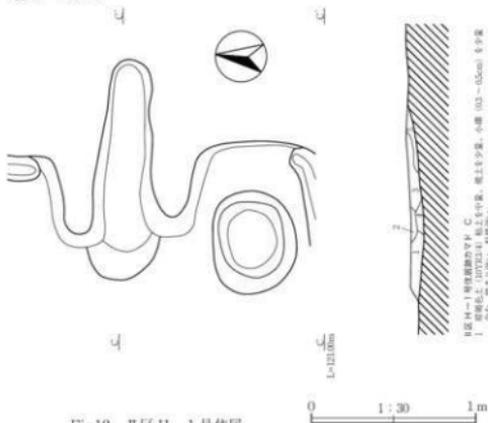


II区H-1号住居跡跡地 A-A、B-B  
 1. 灰褐色土 (IVY22-3) 小礫 (0.1~0.3cm) 中少量、灰中礫層を含む。礫層中中礫あり、粘質弱い。  
 2. 灰褐色土 (IVY22-2) 中礫 (0.1~0.3cm) 中少量、灰中礫層を含む。礫層中中礫あり、粘質弱い。  
 3. 灰褐色土 (IVY22-2) 中礫 (0.1~0.3cm) 中少量、灰中礫層を含む。礫層中中礫あり、粘質弱い。  
 4. 灰褐色土 (IVY22-2) 中礫 (0.1~0.3cm) 中少量、灰中礫層を含む。礫層中中礫あり、粘質弱い。

II区H-1号住居跡跡地 (D-D)

1. 灰褐色土 (IVY22-3) 小礫 (0.1~0.3cm) 中少量、灰中礫層、L-6a 灰褐色土中少量含む。粘質弱い。
2. 灰褐色土 (IVY22-3) 小礫 (0.1~0.3cm) 中少量、L-6a 灰褐色土中少量含む。粘質弱い。
3. 灰褐色土 (IVY22-3) L-6a 灰褐色土中少量含む。粘質弱い。

II区H-1号カマド



II区H-1号住居跡跡地カマド C-C  
 1. 灰褐色土 (IVY22-3) 中礫 (0.1~0.3cm) 中少量、灰中礫層、粘質弱い。  
 2. 灰褐色土 (IVY22-3) 中礫 (0.1~0.3cm) 中少量、灰中礫層、粘質弱い。  
 3. 灰褐色土 (IVY22-3) 中礫 (0.1~0.3cm) 中少量、灰中礫層、粘質弱い。  
 4. 灰褐色土 (IVY22-3) 中礫 (0.1~0.3cm) 中少量、灰中礫層、粘質弱い。  
 5. 灰褐色土 (IVY22-3) 中礫 (0.1~0.3cm) 中少量、灰中礫層、粘質弱い。

Fig.12 II区H-1号住居

## (2) 土坑：確認トレンチ部

確認トレンチ部では、古代面で土坑1基が確認された。なお、本Ⅱ区では、R-1下土坑が4基検出されている。

### D-1号土坑 (Fig.11・13・、PL.3)

位置 X191・Y104 形状 南部が調査区外であるため、全容は不明。規模 長軸[南北](0.55m) 短軸[東西]0.6m 深さ0.12m 遺物 土師質坏1点が検出されている。

#### Ⅱ区D-1

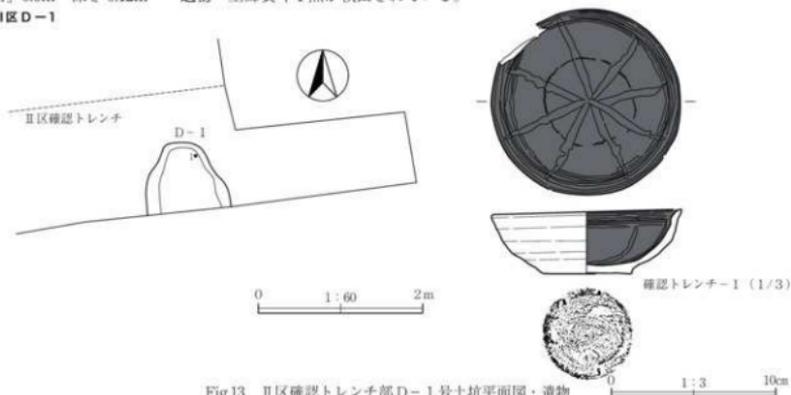


Fig.13 Ⅱ区確認トレンチ部D-1号土坑平面図・遺物

Tab.3 Ⅱ区確認トレンチ部D-1号土坑出土遺物観察表

Ⅱ区確認トレンチ部D-1

No	出土位置	種別・形状	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	練成	色調	裏形・底・裏形・文様等の特徴	当所状況・備考
1	確認トレンチ部D-1	土師質 坏	11.4	5.4	3.8	緻密	良好	橙 7.5YR 7.6	外底：上縁部ヨコナテ ローロ凹取 底面凸切 内面：黒色処理 暗文	45(彩色)

## (3) 道 (Fig.11・14・15・16・17・18、PL.2・3・4・5)

位置 X189・190、Y100・101・102・103・104 規模 長さ16.35m(調査区内)・17.85m(確認トレンチ部を含む)・19.85m(北部トレンチ部を含む)、幅0.8m～4.0m 形状 確認トレンチ部はほぼ平坦である。調査区内の道路面は周辺部の地表から掘りこまれており、南から北へ緩やかに傾斜している。所謂、切通道である。恐らく、北部に位置する牛池川に続くものと推定される。硬化面 往来した道の路面部の中央に、幅0.1m～0.8mで認められた。重複 重複は、認められなかった。出土遺物 土師器坏・高台付埴・甕、須恵器坏・甕等が検出されている。土師器坏を掲載した。掘り方 道の硬化面下部には、直径2～3cmの砂利が敷き詰められており、さらに、道下土坑が4基検出された。時期 本Ⅱ区の上面には、中世の土坑墓25基・火葬跡3基・土坑9基が検出されている。したがって、中世には道はすでに埋没し、墓域を形成していた事を物語る。北部の土層断面を観察すると、As-B(浅間B軽石)軽石がレンズ状に堆積しており、少なくとも平安後期(嘉承3年～天仁元年)の1108年以後は道として使用されていなかった事が確かである。また、8世紀前半と推定される土師器坏が検出されている。但し、全国で検出されている道跡では、道を補修した際に土器片が紛れ込むことが知られているため、この土器をもって年代を確定することはできない。本区南部に位置する「元総社小見内Ⅲ遺跡」の6区では、上面に中世火葬跡7基・近世土坑墓8基が検出されているが、残念ながら、道跡は報告されていない。この元総社小見内Ⅲ遺跡のさらに南部に位置する「元総社蒼海遺跡群(30)」で検出されたA-1は、本R-1に続くものと推定されるが、H-4住居と重複している。この住居の時期は7世紀以降と推定されており、時期は溝との関係からH-4埋没後の7世紀後半から中世と推定されている。なお、このA-1には左右に溝が検出されているが、北部で途切れている。総合的に、時期は、7世紀後半以降～1108年までと推定される。

II区 R-1



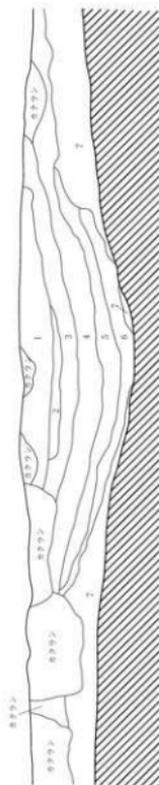
Fig.14 II区 R-1 検出面





3トレンチ

1:1000



1 砂礫層

- 1 砂礫層(上) 107762.25 小礫 (0.3 - 0.5cm) 若干を含む、細まじり層、粘性弱。
- 2 砂礫層(上) 107762.25 粗粒上層部、As層部(粘土層部)を、細まじり層、粘性弱。
- 3 砂礫層(上) 107762.25 小礫 (0.3 - 0.5cm) 若干、黄褐色の粘土層 (0.1 - 0.5cm) を、細まじり層、粘性弱。
- 4 砂礫層(上) 107762.25 小礫 (0.3 - 0.5cm) 若干、黄褐色の粘土層 (0.1 - 0.5cm) を、細まじり層、粘性弱。
- 5 砂礫層(上) 107762.25 小礫 (0.3 - 0.5cm) 若干、黄褐色の粘土層 (0.1 - 0.5cm) を、細まじり層、粘性弱。
- 6 砂礫層(上) 107762.25 小礫 (0.3 - 0.5cm) 若干、黄褐色の粘土層 (0.1 - 0.5cm) を、細まじり層、粘性弱。
- 7 1:40の黄褐色土、107764.25、1:40の黄褐色の砂質土層、明礫(上層部)を、細まじり層、粘性弱。

0 1:40 1m

1:1000



0 1:80 2m

Fig.17 II区セクション(3)

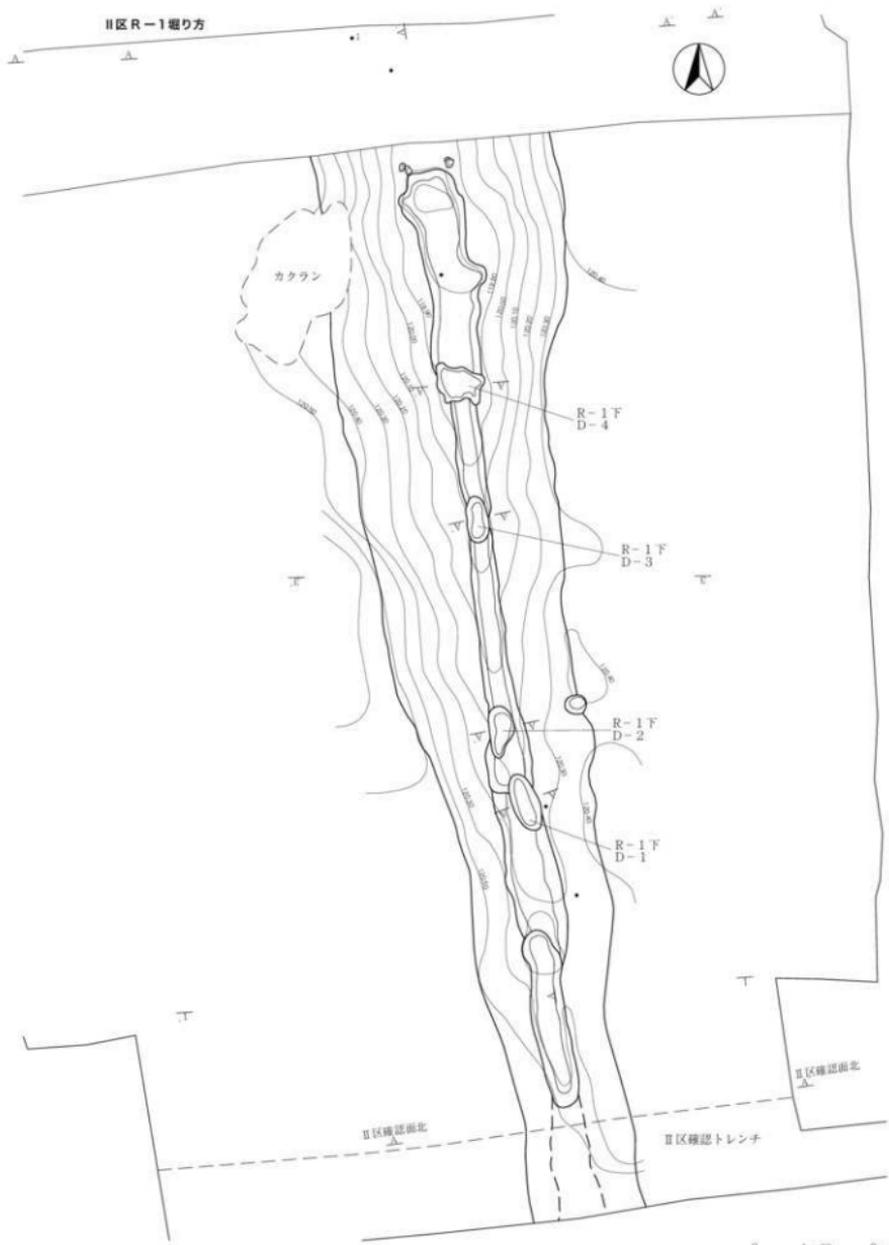


Fig.18 II区 R-1掘り方平面図

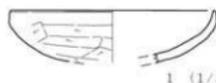


Fig.19 II区R-1出土遺物



Tab.4 II区R-1出土遺物観察表

II区R-1										
No	出土位置	種別・種類	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形・成・整形・文様等の特徴	現状・備考
1	P1	土師瓦 環	124	-	32	微細砂	良好	橙 75YR 6/8	外面:口縁部ヨコナデ 以下、ハケナズリ 内面:口縁部ヨコナデ 以下、ヨコナデ	1/7

#### (4) 道下土坑

R-1の路面下から、道下土坑(R-1下D)が4基検出された。いずれも、上層では約1cm~3cmの礫が検出されており、道を補強する目的、あるいは、ぬかるんで補修した痕跡であると推定される。いずれも、重複は認められず遺物は検出されなかった。なお、断面は南側ではなく北側をとっている。

##### R-1下D-1 (Fig. 18・20, PL. 5)

位置 X190・Y102 形状 楕円形 規模 長軸〔南北〕1m・短軸〔東西〕0.44m

##### R-1下D-2 (Fig. 18・20, PL. 5)

位置 X190・Y102 形状 不整楕円形 規模 長軸〔南北〕0.84m・短軸〔東西〕0.4m

##### R-1下D-3 (Fig. 18・20, PL. 5)

位置 X190・Y101・102 形状 楕円形 規模 長軸〔南北〕0.76m・短軸〔東西〕0.34m

##### R-1下D-4 (Fig. 18・20, PL. 5)

位置 X190・Y101 形状 不整形 規模 長軸〔南北〕0.8m・短軸〔東西〕0.5m

#### II区R-1下D-1~4

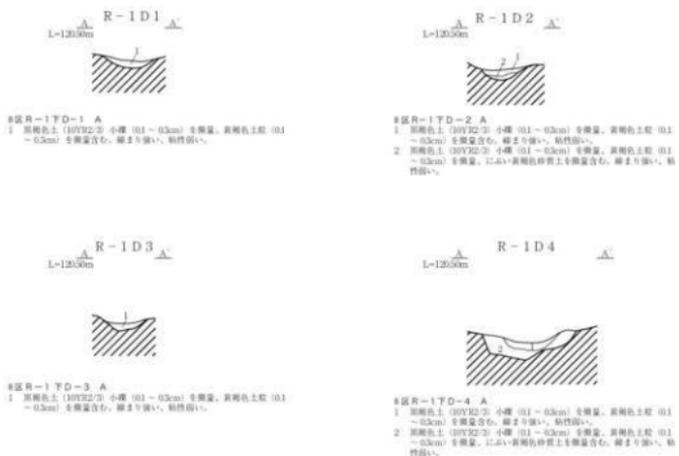
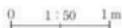


Fig.20 II区R-1下土坑セクション



## 【1面：中世面】

1面の中世面では、土坑墓(DB)25基・火葬跡(KB)3基・土坑(D)9基が検出された。

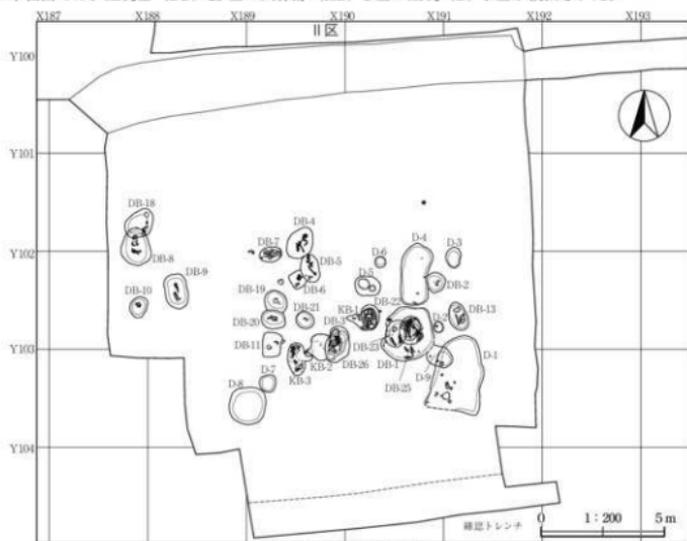


Fig.21 II区1面全体図

### (1) 土坑墓 (Fig.21～25, PL.6・7・8)

土坑墓は25基検出され、1基に1体ずつ人骨あるいは獣骨が検出された。但し、II区の北部において重機掘削中に検出された土坑墓は、工程上、形を記録せず骨だけを取り上げ、中心部で点を記録したのみにとどめた。これらは、DB-14～DB-17の4基である。土坑墓は、重複も多く、集中しているため、当時、墓域を形成していたと推定される。時期は、副葬品の銭貨から、中世であると推定される。実際、寛永通宝は、1点も認められなかった。明治初年の地図には、この発掘区内に「阿弥陀寺」の存在が確認されたため、この同寺に伴う墓域である可能性が高い。

### (2) 火葬跡 (Fig.21～24, PL.6・7・8)

火葬跡は、3基検出された。略称は、土坑墓(DB)に合わせてKB(火葬墓)としたが、実際は、火葬墓ではなく、火葬跡である。時期は、副葬品の銭貨や土器から、土坑墓と同様に中世であると推定される。実際、寛永通宝は、1点も認められなかった。

### (3) 土坑 (Fig.21～22・24, PL.6・7・8)

土坑は、9基が検出された。この内、1基からは、馬歯が検出された。このD-1は馬頭観音かもしれない。

### (4) 確認トレンチ

1号道(R-1)がどのような形態で続いているのかを確認するために、調査区外であるが、前橋市教育委員会の許可を得て南部に確認トレンチを入れた。この確認トレンチの掘削時に1基、近世墓を確認した。但し、工程上、土坑墓の形を記録せず人骨だけを取り上げた。現地での確認で、被葬者は、座葬で埋葬されていた事が確認されたため、副葬品は検出されなかったが、近世人骨と認定した。この確認トレンチ部のすぐ南は、元総社小見内Ⅲ遺跡として2001年～2002年に調査が行われており、近世土坑墓8基と火葬跡7基がある程度集中して検出されている(前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2001)。

土坑墓 (DB)・火葬跡 (KB)・土坑 (D) 等の出土人骨及び出土獣骨の詳細な記載は、頁数の制限があるため、以下のような一覧表にまとめた。機会を改めて、詳細な報告を行いたい。

Tab. 5 II区土坑墓・火葬跡・土坑まとめ表

土坑墓 No	形状	規模 (m)			重複		副葬品	埋葬状態			被葬者		
		長軸	短軸	深さ	遺構名	新旧		埋葬状態	方位	個体数	性別	死亡年齢	備考
DB-1	不整形円形	直径約 2.0	0.5		D9	DB1>D9	板碑 五輪塔	不明 不明	不明 不明	2 個体	♀	約 3 歳	-
DB-2	不整形円形	直径約 0.8	0.28		D4	DB2<D4	-	不明	不明	1 個体	不明	約 2 歳	-
DB-3	楕円形	0.74	0.36	0.24		無し	カワラケ	不明	不明	1 個体	不明	約 40 歳代	-
DB-4	楕円形	1.36	1.0	0.1		無し	銭貨 2 点	右下横臥屈葬	北北西	1 個体	♀	約 40~50 歳代	顔物 (虫歯)
DB-5	楕円形	1.14	0.73	-	DB6	DB5>DB6	無し	右下横臥屈葬	北	1 個体	♂	約 40 歳代	顔物 (虫歯)
DB-6	方形	長辺 0.68	-	-	DB5	DB6<DB5	無し	不明	不明	1 個体	♀	約 20~30 歳代	-
DB-7	楕円形	0.9	0.62	-		無し	無し	不明	不明	1 個体	♀	約 3 歳	-
DB-8	不整形楕円形	1.52	1.16	0.22	DB18	DB8>DB18	銭貨 6 点	右下横臥屈葬	北	1 個体	♀	約 40 歳代	顔物 (虫歯)
DB-9	楕円形	1.42	0.91	0.16		無し	カワラケ 1 点 銭貨 1 点	右下横臥屈葬	北	1 個体	♀	約 20 歳代	-
DB-10	楕円形	0.86	0.68	0.24		無し	銭貨 5 点	顔部のみ	不明	1 個体	♂	約 30 歳代	-
DB-11	楕丸長方形	0.98	0.72	-		無し	無し	屈葬?	南西	1 個体	♂	成人	-
DB-12	楕円形	-	-	-	DB26	DB12>DB26	カワラケ 2 点	不明	不明	1 個体	♂	成人	-
DB-13	楕円形	1.18	0.74	0.32		無し	無し	仰臥屈葬	北北西	1 個体	♂	約 30~40 歳代	-
DB-14	点上げ	-	-	-		無し	無し	不明	不明	1 個体	♂	高年齢	-
DB-15	点上げ	-	-	-		無し	無し	不明	不明	1 個体	♂	高年齢	-
DB-16	点上げ	-	-	-		無し	無し	不明	不明	1 個体	♂	高年齢	-
DB-17	点上げ	-	-	-		無し	無し	不明	不明	1 個体	♂	高年齢	-
DB-18	不整形楕円形	1.31	1.0	0.18	H1	DB18>H1	無し	不明	北	1 個体	♂	約 40 歳代	生前脱落
DB-19	不整形円形	1.0	0.9	0.16	DB20	DB19<DB20	無し	不明	不明	1 個体	♂	約 30 歳代	-
DB-20	楕円形	1.0	0.76	0.2	DB19	DB20>DB19	無し	屈葬?	不明	1 個体	♂	成人	-
DB-21	不整形円形	0.75	0.66	0.08		無し	銭貨 2 点	不明	不明	1 個体	不明	小児?	-
DB-22	楕円形	0.98	0.72	0.1		無し	金属製品・ 銭貨 2 点	屈葬	北	1 個体	♂	3 歳~4 歳	-
DB-23	楕円形	1.0	0.84	0.12		無し	無し	屈葬	北	1 個体	♀	約 40 歳代	-
DB-24							欠番						
DB-25	楕円形	1.16	0.86	0.15		無し	カワラケ 2 点	左下横臥屈葬	北	1 個体	♂	老齢	無歯
DB-26	不整形楕円形	1.5	0.96	0.36	DB12	DB26<DB12	銭貨 19 点	右下横臥屈葬	北	1 個体	♀	老齢に近い	-

火葬跡 No	形状	主体部規模 (m)			重複		副葬品	被火葬状態			被火葬者		
		長軸	短軸	深さ	遺構名	新旧		被火葬状態	方位	個体数	性別	死亡年齢	備考
KB-1	タイプⅡ	0.88	0.62	-		無し	カワラケ 2 点	屈位	北	1 個体	♂	成人	-
KB-2	タイプⅡ	1.3	0.66	-		無し	カワラケ 1 点	屈位	北	1 個体	♂	成人	-
KB-3	タイプⅢ?	1.08	0.76 以上	-	DB26	KB3<DB26	銭貨 1 点	不明	不明	不明	不明	不明	-

土坑 No	形状	規模 (m)			重複		副葬品	備考
		長軸	短軸	深さ	遺構名	新旧		
D-1	不整形	3.1	2.0	0.24	D9	D1<D9	カワラケ 2 点	馬頭観音?
D-2	不整形円形	0.46	0.38	0.2		無し	無し	-
D-3	楕円形	0.84	0.6	0.08		無し	無し	-
D-4	楕丸長方形	2.5	1.11	0.1	DB12	D4<DB12	無し	-
D-5	楕円形	1.05	0.76	0.38		無し	無し	-
D-6	円形	直径約 0.44~0.46	0.14			無し	無し	-
D-7	不整形円形	直径約 0.65~0.7	0.12			無し	無し	-
D-8	不整形円形	直径約 1.46~1.52	0.18			無し	無し	-
D-9	楕円形	1.02	0.8	0.24	DB11・ D1	D9>D1	カワラケ 1 点	-

II区DB-1·12·13、KB-1、D-2~6·9

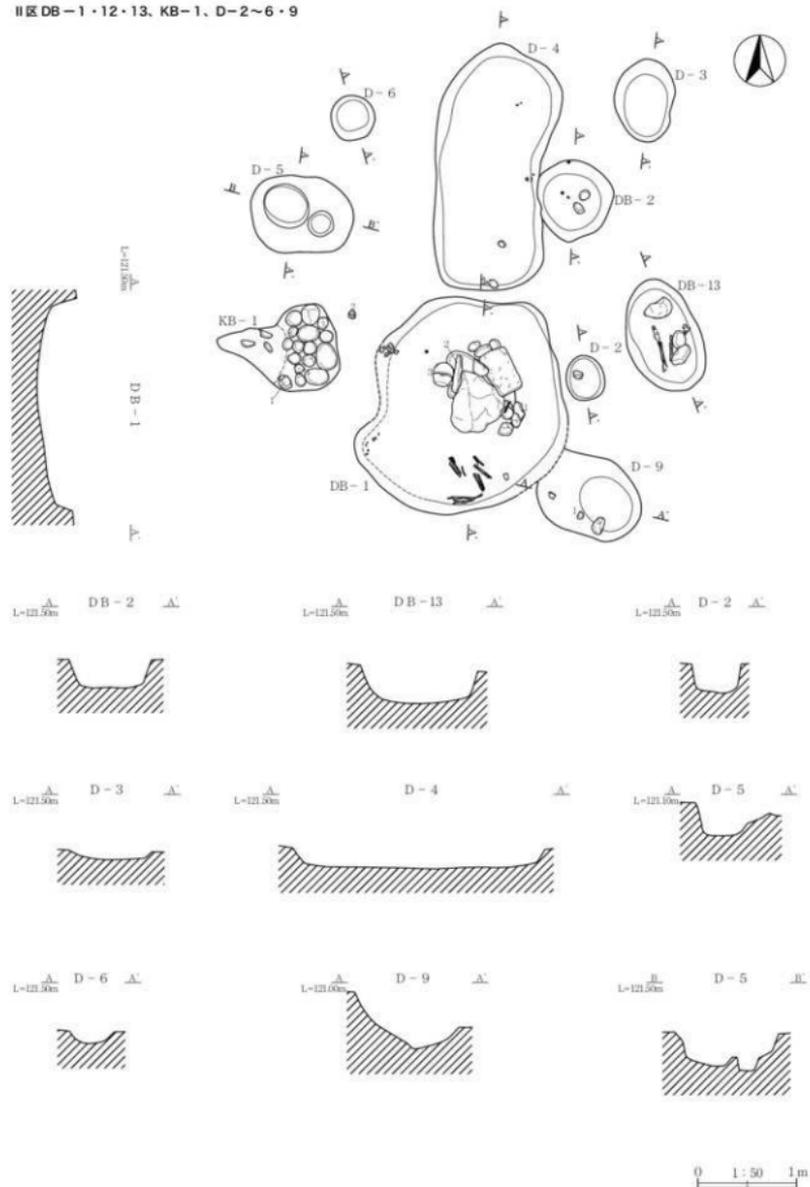
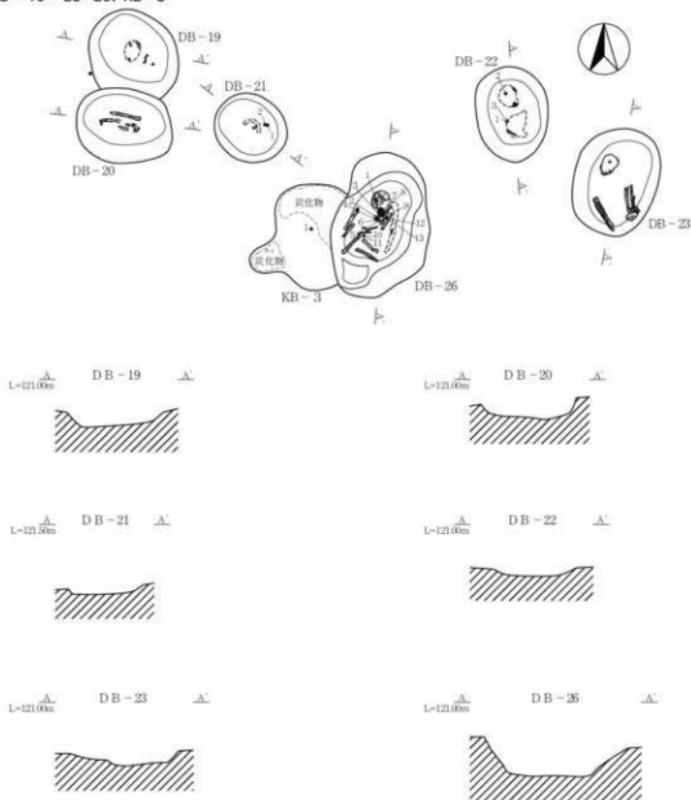


Fig.22 II区1面DB-1·2·13号土坑墓、KB-1号火葬墓、D-2~6·9号土坑

II区 DB-19~23·26, KB-3



II区 DB-25

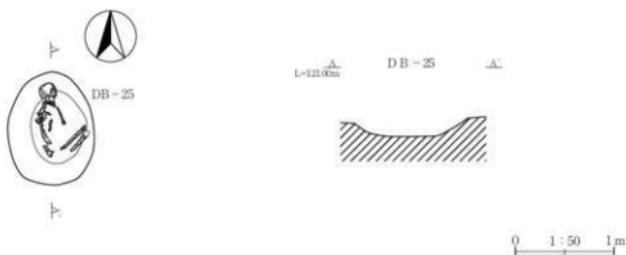
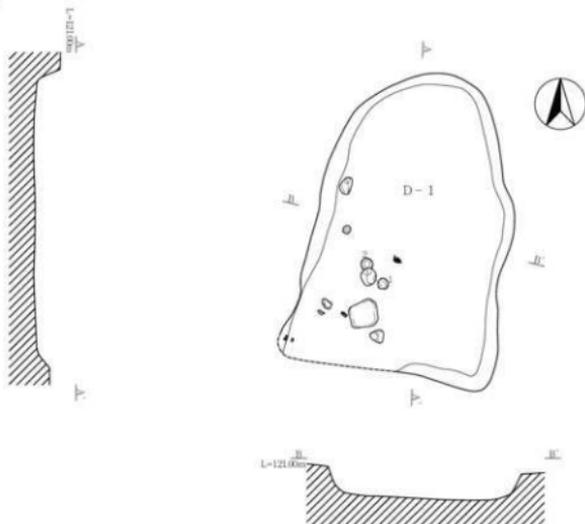


Fig.23 II区1面DB-19~23·25·26号土墓、KB-3火葬墓

Ⅱ区D-1



Ⅱ区DB-3·11、KB-2、D-7·8

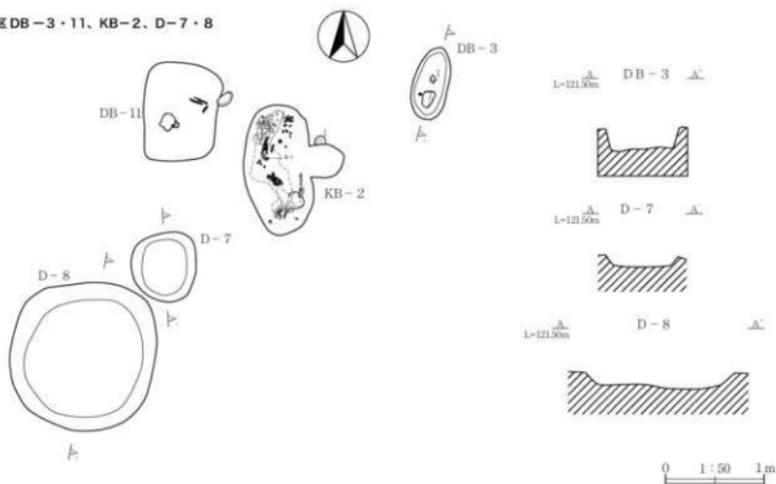


Fig.24 Ⅱ区1面DB-3·11号土坑墓、KB-2火葬墓、D-1·7·8号土坑

II区DB-4~10·18

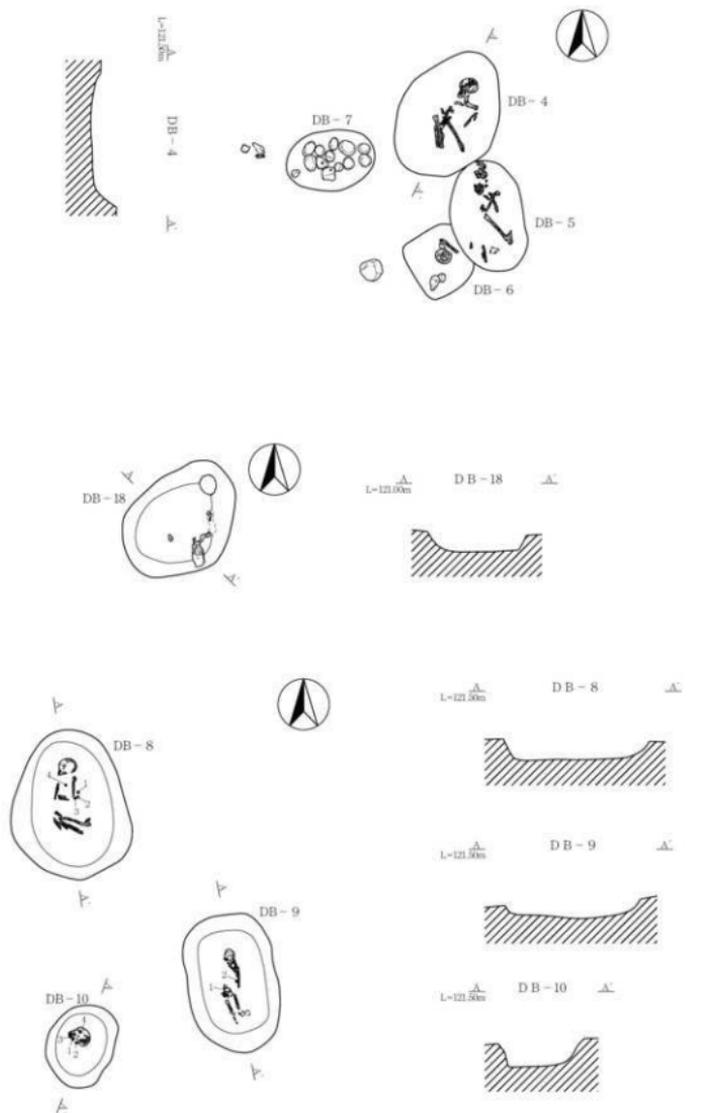
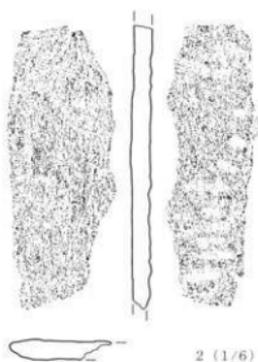
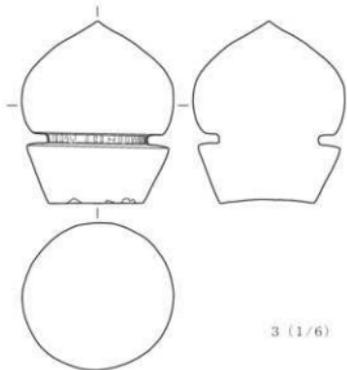


Fig.25 II区DB-4~10·18号土坑墓

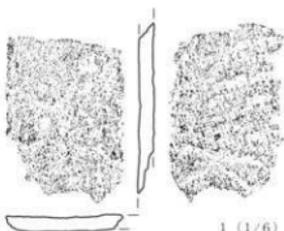
Ⅱ区 DB-1



2 (1/6)

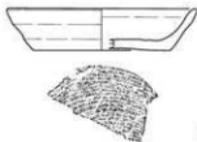


3 (1/6)



1 (1/6)

Ⅱ区 DB-3



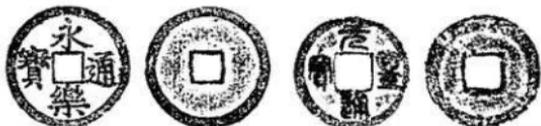
1 (1/3)

Ⅱ区 DB-4



1 (1/1)

Ⅱ区 DB-8



1 (1/1)

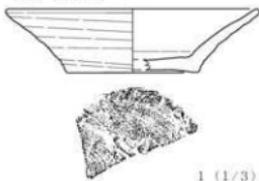
2 (1/1)



3 (1/1)

4 (1/1)

Ⅱ区 DB-9



1 (1/3)



2 (1/1)

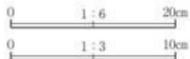
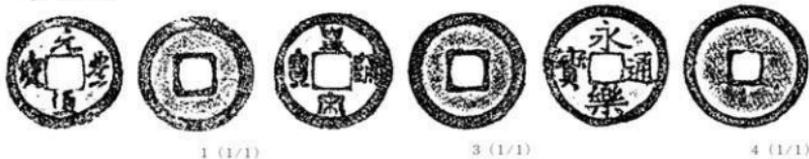
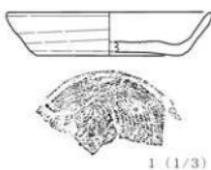


Fig.26 Ⅱ区1面出土遺物(1)

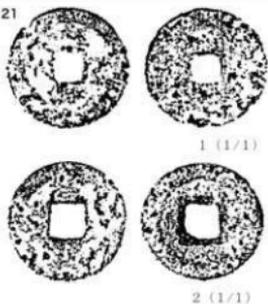
II区 DB-10



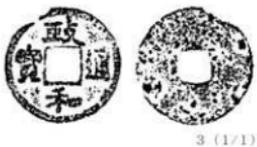
II区 DB-12



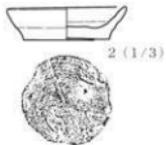
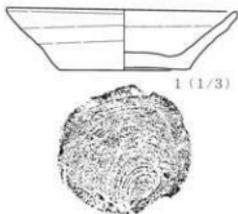
II区 DB-21



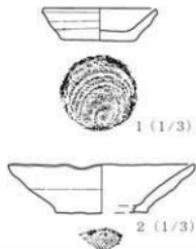
II区 DB-22



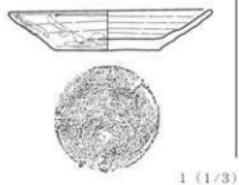
II区 KB-1



II区 DB-25



II区 KB-2



II区 KB-3

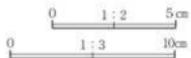
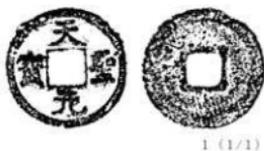
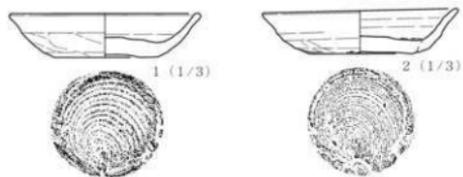
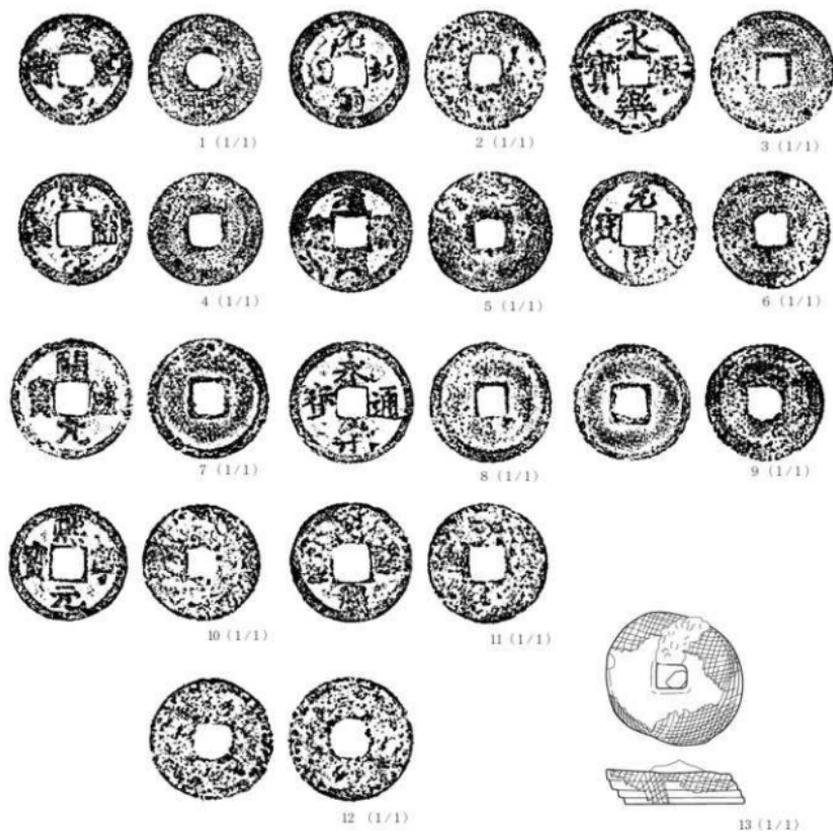


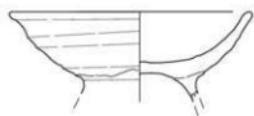
Fig.27 II区1面出土遺物(2)



0 1:3 10cm

Fig.28 II区1面出土遺物(3)

II区 透模外

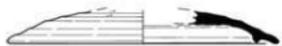


1 (1/3)



2 (1/3)

II区 表探7

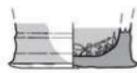


7-1 (1/3)



7-2 (1/3)

II区 表探9



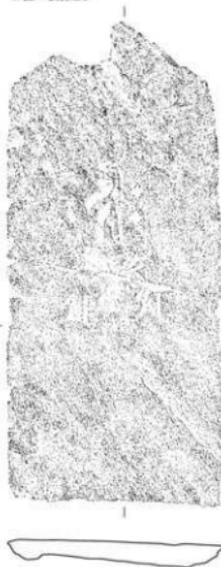
9-1 (1/4)

II区 表探24



24-1 (1/6)

II区 表探25

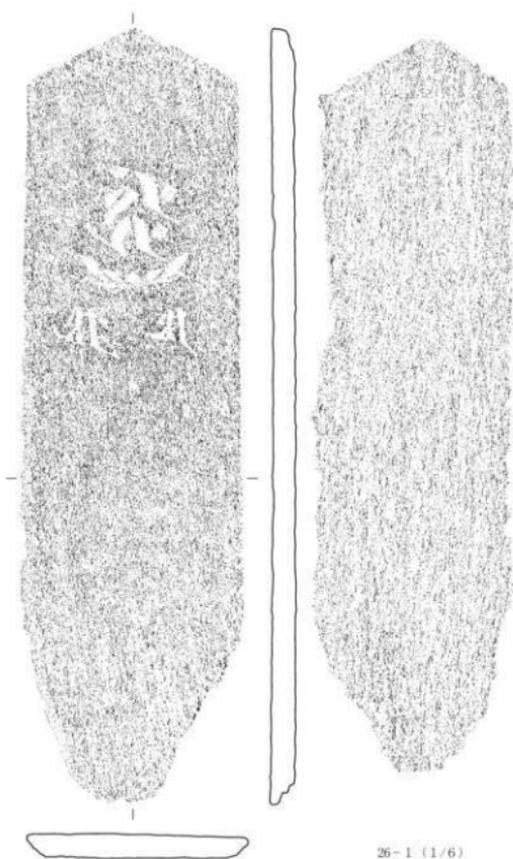


25-1 (1/6)

0 1:2 5cm 0 1:3 10cm 0 1:6 20cm

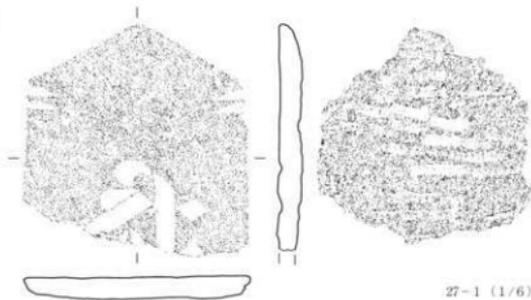
Fig.29 II区1面出土文物(4)

II区 表探26



26-1 (1/6)

II区 表探27



27-1 (1/6)

0 1:6 20cm

Fig.30 II区1面出土遺物(5)

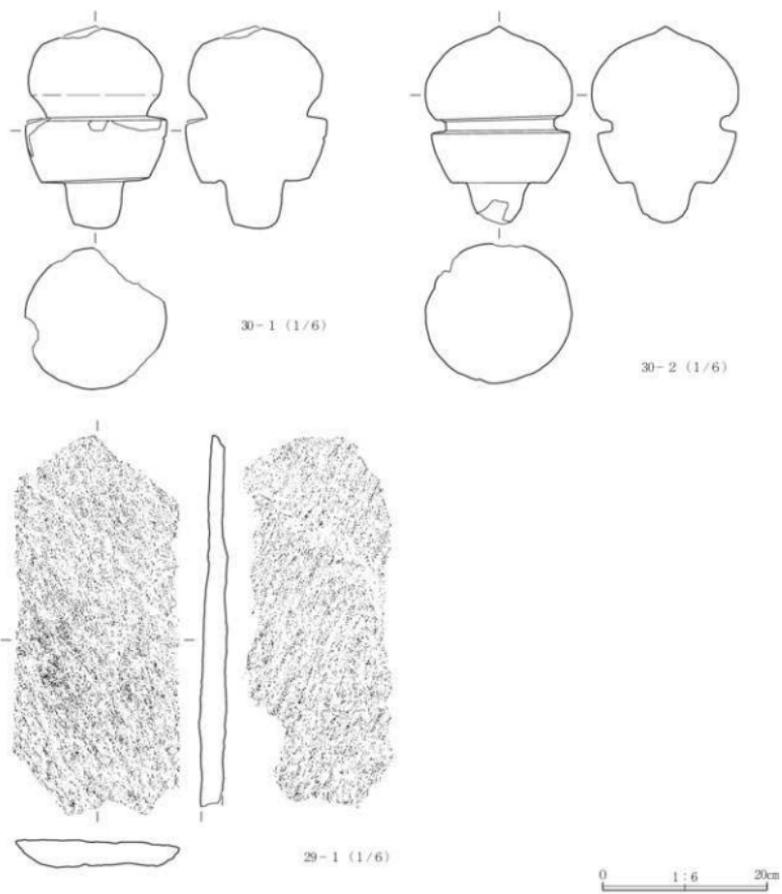


Fig31. II区1面出土遺物(6)

Tab.6 II区出土遺物観察表

II区DB-1										
No	出土位置	種別・器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	石材	色調	形状・成・彫形・文様等の特徴	保存状況・備考	
1	II	板碑	(20.7)	(14.2)	-	緑泥片岩		表:特に無し。 裏:横ノス痕。	破片	
2	I3	板碑	(35.0)	(12.4)	-	緑泥片岩		表:特に無し。 裏:横ノス痕。	破片	
3	G1	五輪塔 空輪・風輪	184	11.4	222	-			梵字は認められない	
II区DB-3										
No	出土位置	種別・器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	胎土	焼成	色調	形状・成・彫形・文様等の特徴	保存状況・備考
1	P1	カワラケ	[11.3]	[8.2]	26	茶色粒を含む	良好	灰黄色 10YR 7/4	外部:口縁部ヨコナデ 底部の縁部未切 内部:口縁部ヨコナデ 底部のヨコナデ	1/4残存
II区DB-4										
No	出土位置	種別・器種	直径	厚さ	穿孔径	材質	重量	経緯・製造年等	保存状況・備考	
1		覆土 銅製品 銭貨	25mm	1.4mm	6.5mm	銅	2.4g	元龜通宝 (1086年)	定形	
II区DB-8										
No	出土位置	種別・器種	直径	厚さ	穿孔径	材質	重量	経緯・製造年等	保存状況・備考	
1	C1	銅製品 銭貨	25mm	1.4mm	5.6mm	銅	2.3g	永業通宝 (1408年)	定形	
2	C2	銅製品 銭貨	23.5mm	1.4mm	7mm	銅	1.8g	元龜通宝 (1078年)	定形	
3	C3	銅製品 銭貨	25mm	1.5mm	6.8mm	銅	2.7g	泉寧通宝 (1039年)	定形	
4	C4	銅製品 銭貨	-	-	-	銅	7.8g	3枚並着:1枚は開元通宝 (966年)・2枚不詳	定形	
II区DB-9										
No	出土位置	種別・器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	胎土	焼成	色調	形状・成・彫形・文様等の特徴	保存状況・備考
1	P1	カワラケ	[15.2]	[8.0]	(3.9)	微灰砂	良好	浅黄橙 10YR 8/4	内部:口縁部ヨコナデ 底部の縁部未切 外部:口縁部ヨコナデ 以下は成形後ヨコナデ磨 内部:口縁部ヨコナデ 以下は成形後ヨコナデ磨	1/3残存
II区DB-10										
No	出土位置	種別・器種	直径	厚さ	穿孔径	材質	重量	経緯・製造年等	保存状況・備考	
1	C1	銅製品 銭貨	25mm	1.4mm	5.6mm	銅	2.5g	元龜通宝 (1078年)	定形	
II区DB-12										
No	出土位置	種別・器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	胎土	焼成	色調	形状・成・彫形・文様等の特徴	保存状況・備考
1	覆土 カワラケ		[12.3]		8.8	緻密 1mm小石	良好	浅黄橙 10YR 8/4	外部:口縁部ヨコナデ 底部の縁部未切 内部:口縁部ヨコナデ 以下は成形後ヨコナデ磨	1/3残存
2	覆土 カワラケ		122	8.4	2.8	微細砂 1mm小石	良好	浅黄橙 10YR 8/4	外部:口縁部ヨコナデ 底部の縁部未切 内部:口縁部ヨコナデ 以下は成形後ヨコナデ磨	1/3残存
II区DB-21										
No	出土位置	種別・器種	直径	厚さ	穿孔径	材質	重量	経緯・製造年等	保存状況・備考	
1	C1	銅製品 銭貨	25mm	1.8mm	5.8mm	銅	2.8g	元龜通宝 (1086年)	定形	
2	C2	銅製品 銭貨	24mm	1.7mm	7mm	銅	1.8g	元龜通宝 (1078年)	定形	
II区DB-22 金貨製品・銭貨										
No	出土位置	種別・器種	直径	厚さ	穿孔径	材質	重量	経緯・製造年等	保存状況・備考	
1	C1	銅製品 銭貨	31mm	1mm	5.2mm	銅	7g	用途不明金貨 平タン状の裏に帯	定形	
2	C2	銅製品 銭貨	24mm	1.3mm	6.7mm	銅	2g	崇寧元宝 (1101年)	定形	
3	C2	銅製品 銭貨	24mm	1.7mm	6.5mm	銅	2.1g	政和通宝 (1111年)	定形	
II区DB-25										
No	出土位置	種別・器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	胎土	焼成	色調	形状・成・彫形・文様等の特徴	保存状況・備考
1	覆土 カワラケ		7.8	4.4	2.0	緻密	良好	橙 7.5YR 7/6	外部:口縁部ヨコナデ 底部の縁部未切 内部:口縁部ヨコナデ 以下は成形後ヨコナデ磨	(14)定形
2	覆土 カワラケ		[11.2]	[5.6]	3.0	緻密	良好	黄褐色 10YR 7/6	外部:口縁部ヨコナデ 底部の縁部未切 内部:口縁部ヨコナデ 以下は成形後ヨコナデ磨	1/4残存
II区DB-26										
No	出土位置	種別・器種	直径	厚さ	穿孔径	材質	重量	経緯・製造年等	保存状況・備考	
1	C1	銅製品 銭貨	23mm	1.5mm	6.7mm	銅	1.9g	熙寧元宝 (1068年)	定形	
2	C2	銅製品 銭貨	25mm	1.8mm	6.2mm	銅	1.5g	元龜通宝 (1086年)	定形	
3	C3	銅製品 銭貨	25mm	2mm	5mm	銅	2.6g	永業通宝 (1408年)	定形	
4	C4	銅製品 銭貨	24mm	1.6mm	6.5mm	銅	2.1g	熙寧元宝 (1068年)	定形	
5	C5	銅製品 銭貨	25mm	1.5mm	6mm	銅	2.4g	元龜通宝 (1086年)	定形	
6	C6	銅製品 銭貨	24mm	1.7mm	6.5mm	銅	3g	元龜通宝 (1086年)	定形	

No	出土位置	種別・器種	口径	厚さ	穿孔径	材質	重量	経緯・製造年等	保存状況・備考
7	C7-1	銅製品 鏡貨	25mm	1.5mm	62mm	銅	23g	開元通宝(996年)	完形
8	C7-2	銅製品 鏡貨	25mm	1.6mm	57mm	銅	26g	永寧元宝(1408年)	完形
9	C7-3	銅製品 鏡貨	-	-	-	銅	10.1g	3枚並置：2枚共に不説	完形
10	C9-1	銅製品 鏡貨	24mm	1.6mm	6mm	銅	22g	熙寧元宝(1068年)	完形
11	C9-2	銅製品 鏡貨	24.5mm	1.5mm	7mm	銅	1.8g	熙寧元宝(1068年)	完形
12	C10	銅製品 鏡貨	-	-	-	銅	5.5g	2枚並置：2枚共に不説	完形
13	C11	銅製品 鏡貨	-	-	-	銅	16.6g	4枚並置：4枚共に不説 奉行者	完形

#### Ⅱ区K B-1

No	出土位置	種別・器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形・成・彫形・文様等の特徴	保存状況・備考
1	1	カワラケ	13.9	8.0	3.8	緻密	良好	浅黄色	外面：口縁部ヨコナデ 以下ロクロ成形 一部テラコタ製 回転糸 内面：口縁部-底面 ロクロ成形	2/3 残存
2	2	カワラケ	7.1	5.3	2.0	白色粒を含む	良好	灰白色 R 6/3	外面：口縁部ヨコナデ 底部回転糸 内面：口縁部ヨコナデ 以下ロクロナデ	口縁部 1/4 欠損

#### Ⅱ区K B-2

No	出土位置	種別・器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形・成・彫形・文様等の特徴	保存状況・備考	
1	1	PI	カワラケ	12.2	6.4	2.5	緻密	良好	橙 7.5YR 7/6	外面：口縁部ヨコナデ 以下ロクロ成形 回転糸 内面：口縁部ヨコナデ 一部ナデ 底部ヘラコタ製調整	2/3 残存

#### Ⅱ区K B-3

No	出土位置	種別・器種	口径	厚さ	穿孔径	材質	重量	経緯・製造年等	保存状況・備考
1	C 1	銅製品 鏡貨	25mm	1.5mm	69mm	銅	3.1g	天聖元宝(1023年)	完形

#### Ⅱ区D-1

No	出土位置	種別・器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形・成・彫形・文様等の特徴	保存状況・備考
1	Ⅱ区D 1/P 1	カワラケ	[11.3]	6.5	2.7	白色粒を含む	良好	浅黄色 2.5Y 7/4	外面：口縁部-ヨコナデ 以下ロクロナデ 底部回転糸 内面：口縁部-ヨコナデ 以下ロクロナデ	2/3 残存
2	Ⅱ区D 1/P 2	カワラケ	11.6	6.2	2.8	小石を含む	良好	浅黄色 2.5Y 7/3	外面：口縁部-ヨコナデ 底部回転糸 内面：口縁部-ヨコナデ 以下ロクロナデ	完形

#### Ⅱ区D-9

No	出土位置	種別・器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形・成・彫形・文様等の特徴	保存状況・備考
1	Ⅱ区D 9/P 1	カワラケ	9.0	5.2	2.5	茶色粒 小石含む	良好	茶色 7.5YR 7/6	外面：口縁部ヨコナデ 底部ヨコナデ 内面：口縁部-底面 ロクロナデ	口縁部 1/4 欠損

#### Ⅱ区D-10

No	出土位置	種別・器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形・成・彫形・文様等の特徴	保存状況・備考
1	P 1	土製 高台鉢	14.6	-	(5.5)	緻密	良好	浅黄色 10YR 8/4	外面：口縁部ヨコナデ 底部ヨコナデ 高台 底部回転糸 内面：ヨコナデ	底面 一部 欠損
2	P 2	カワラケ	13.3	7.8	2.6	緻密	良好	橙 7.5YR 7/6	外面：口縁部ヨコナデ 底部ヨコナデ 一部ナデ 内面：口縁部成形一部ヘラコタ製	ほぼ完形

#### Ⅱ区表探7

No	出土位置	種別・器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形・成・彫形・文様等の特徴	保存状況・備考
1	7-1	磁器 碗	-	[16.2]	(20)	茶色粒を含む	良好	灰黄色 7.5Y 6/2	外面：口縁部ヘラケスリ 以下ロクロナデ 内面：ロクロナデ	1/5 残存
2	7-2	磁器 碗	[6.4]	[16.4]	2.5	白色粒を含む	良好	灰色 5Y 6/1	外面：口縁部ヨコナデ 底部ヘラケスリ 以下ロクロナデ 内面：ヨコナデ	1/6 残存

#### Ⅱ区表探9

No	出土位置	種別・器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形・成・彫形・文様等の特徴	保存状況・備考
1	9-1	磁器 コネ鉢	-	[10.4]	(3.7)	白色粒 を含む	良好	灰白色 7.5Y 7/1	外面：口縁部ヨコナデ 底部回転糸 内面：口縁部-底部ロクロナデ	底部 1/2 残存

#### Ⅱ区表探24

No	出土位置	種別・器種	長さ	巾	厚	石材	色調	保存状況・備考
1	24	板碑	(52.0)	(24.2)	4.0	緑泥片岩	表：主尊種子キリク (阿含陀如来)、地尊有。脇侍無し。 裏：特に無し。	破片

#### Ⅱ区表探25

No	出土位置	種別・器種	長さ	巾	厚	石材	色調	保存状況・備考
1	25	板碑	(61.7)	(26.7)	3.5	緑泥片岩	表：主尊キリク (阿含陀如来)、地尊有。脇侍有。 裏：特に無し。	破片 3点

#### Ⅱ区表探26

No	出土位置	種別・器種	長さ	巾	厚	石材	色調	保存状況・備考
1	26	板碑	94.9	26.7	3.0	緑泥片岩	表：主尊キリク (阿含陀如来) 異体。地尊有。脇侍有。 裏：特に無し。	完形

#### Ⅱ区表探27

No	出土位置	種別・器種	長さ	巾	厚	石材	色調	保存状況・備考
1	27	板碑	28.0	27.0	2.7	緑泥片岩	表：主尊キリク (阿含陀如来) - 裏：横ノズミ	上部のみ

#### Ⅱ区表探29

No	出土位置	種別・器種	長さ	巾	厚	石材	色調	保存状況・備考
1	29	板碑	(47.5)	20.0	3.3	黒色片岩	表：主尊有。 裏：特に無し。	上部のみ

#### Ⅱ区表探30

No	出土位置	種別・器種	長さ	巾	厚	石材	色調	保存状況・備考	
1	30 1	五輪帯 空輪・風輪	(24.4)	17.1	5.0	-	-	梵字は認められない	3/4 残存

2	30 2	五輪帯 空輪・風輪	(24.2)	17.8	-	-	-	梵字は認められない	ほぼ完形
---	------	--------------	--------	------	---	---	---	-----------	------

### 3 Ⅲ区

Ⅲ区は、ガソリンスタンド建設部の内、給油管敷設部・灯油キャノピー部にあたる。前橋市教育委員会による試掘では、住居0・5軒が想定された。但し、本発掘区は、地権者が造園業を営んでおり多くの木を植えていたため、上部はかなり攪乱を受けていた。発掘調査の結果、本区では、竪穴住居1軒が検出された。なお、実際には竪穴住居がもう1軒検出されているがカマド部がⅣ区で検出されたため、竪穴住居2軒の内1軒はⅣ区に記載した。

#### (1) 竪穴住居

##### H-1号住居 (Fig.32, PL.9)

位置 X195、Y99・100 規模 東西(0.8)m、南北(2.6)m、壁現高(0.2)m。住居の南西部のみが検出されている。面積 1.62㎡。床面 締まりやや弱い。重複 認められない。カマド 検出されず。貯蔵穴 検出されず。柱穴 住居の南西部に1基認められた。出土遺物 覆土中より土師器杯・埴・壺及び須恵器埴・瓶等が検出されたが、いずれも破片で掲載せず。時期 出土遺物の傾向から10世紀代と推定される。

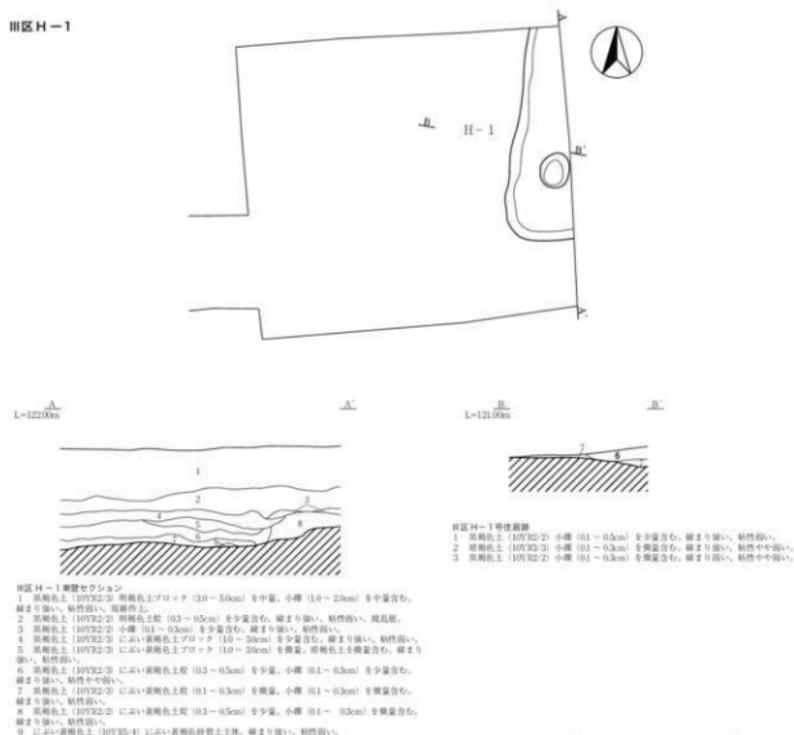


Fig.32 Ⅲ区H-1号住居跡

## 4 IV区

IV区は、ガソリンスタンド建設部の内、ショップ部にあたる。前橋市教育委員会による試掘では、住居3軒・土坑3基・溝1条が想定された。但し、本発掘区は、Ⅲ区と同様に地権者が造園業を営んでいたために多くの木を植えており、上部はかなり攪乱を受けていた。発掘調査の結果、本区では、竪穴住居6軒・地下式土坑1基・縄文土坑1基・溝2条が検出された。なお、Ⅲ区の項でも説明したが、H-6号住居はⅢ区でも検出されているが、カマドを持つ主体部はIV区から検出されているので、IV区に含めた。

### (1) 竪穴住居

竪穴住居は、H1号からH6号まで6軒が検出された。しかしながら、上層は攪乱が多く、残存深度は浅かった。

#### H-1号住居 (Fig.33・34, PL.9)

位置 X195・196、Y102・103 規模 東西壁0.76m、南北壁2.5m、壁現高0.4m。住居の1/4が検出されている。面積 2.22㎡ 床面 締まりやや弱い。重複 重複は認められない。カマド 検出されていない。貯蔵穴 検出されていない。柱穴 検出されていない。出土遺物 住居の床面から、土師器の壺(P1～P4)が検出されている。時期 時期の特定には至らなかった。

#### H-2号住居 (Fig.33・34, PL.9)

位置 X195、Y102 規模 東西1.0m、南北1.7m、壁現高0.3m。住居の一隅のみ検出されている。面積 0.98㎡ 床面 締まりやや弱い。重複 住居のはほぼ全面で竪穴状遺構(TD-1)と重複している。新旧完形は、本住居の方が古い。カマド 検出されていない。貯蔵穴 検出されていない。柱穴 検出されていない。

出土遺物 住居の覆土から、土師器の坏・壺、陶器の塊・平瓦が検出されている。但し、いずれも破片であるため図化せず。時期 出土遺物の傾向から、7世紀代と推定される。

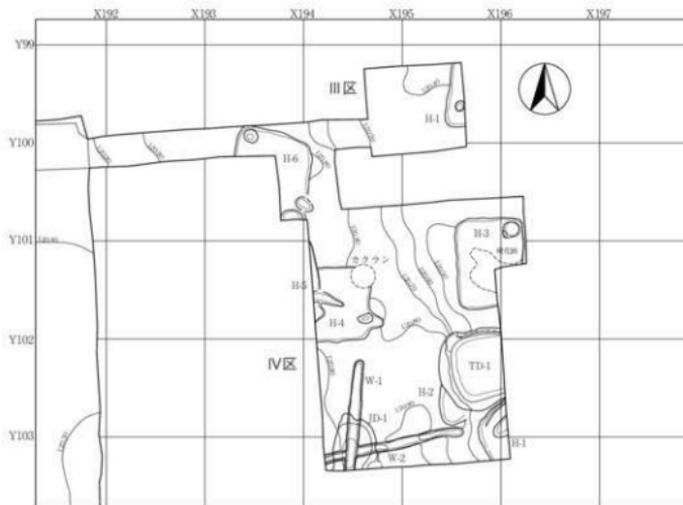


Fig.33 IV区全体図

IV区H-1·2、TD-1

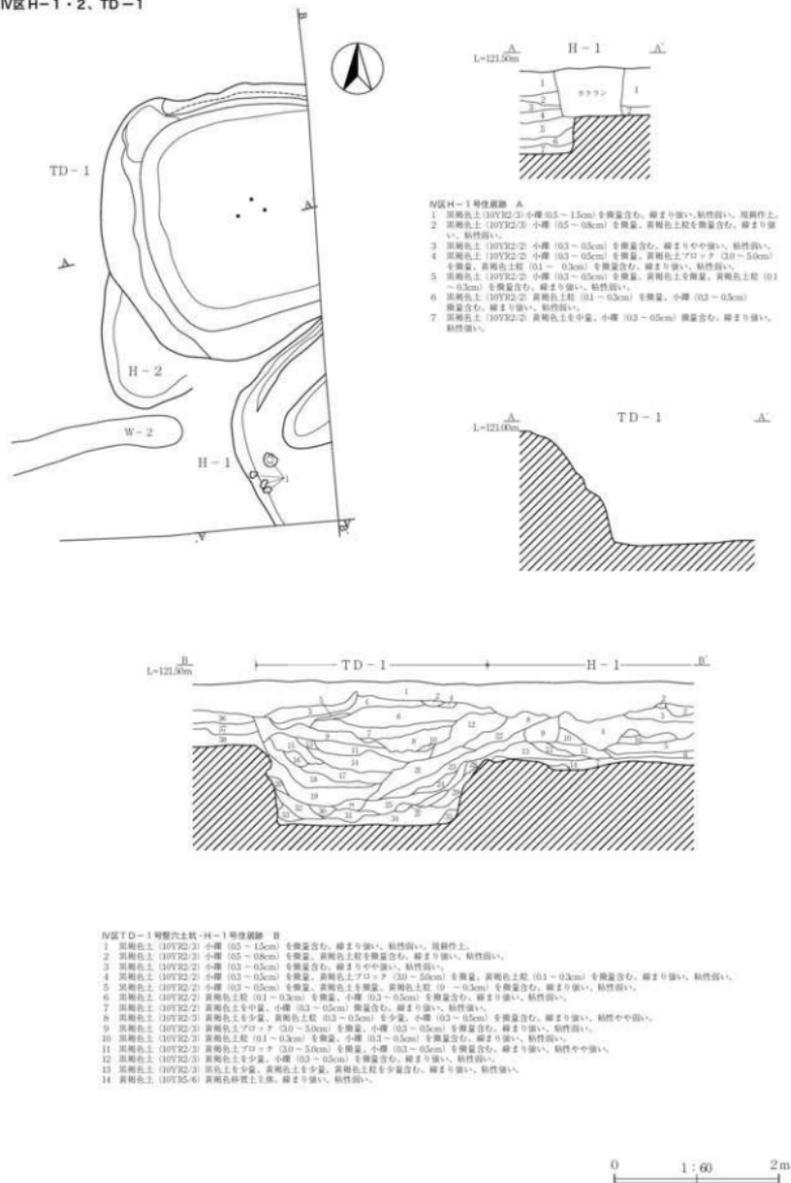


Fig.34 IV区H-1·2号住居・TD-1 竪穴土坑跡

### H-3号住居 (Fig.35, PL.10)

位置 X195・196, Y100・101 規模 東西3.7m、南北5.6m、壁現高0.1m。住居の南東部を除く3/4が検出されている。面積 7.84㎡ 床面 締まりやや弱い。一部に硬化面。重複 重複は、認められない。カマド 検出されず。貯蔵穴 カマドが検出されていないので断定は困難であるが、通常、住居の東側にカマドが構築された場合、貯蔵穴はその南側で検出される事例が多い。但し、断面を観察すると、柱穴というよりは貯蔵穴に近い。柱穴 検出されず。出土遺物 住居の覆土から、土師質高台付埴・土師質釜が検出されている。2点を図化した。時期 出土遺物の傾向から、10世紀代と推定される。

#### IV区H-3

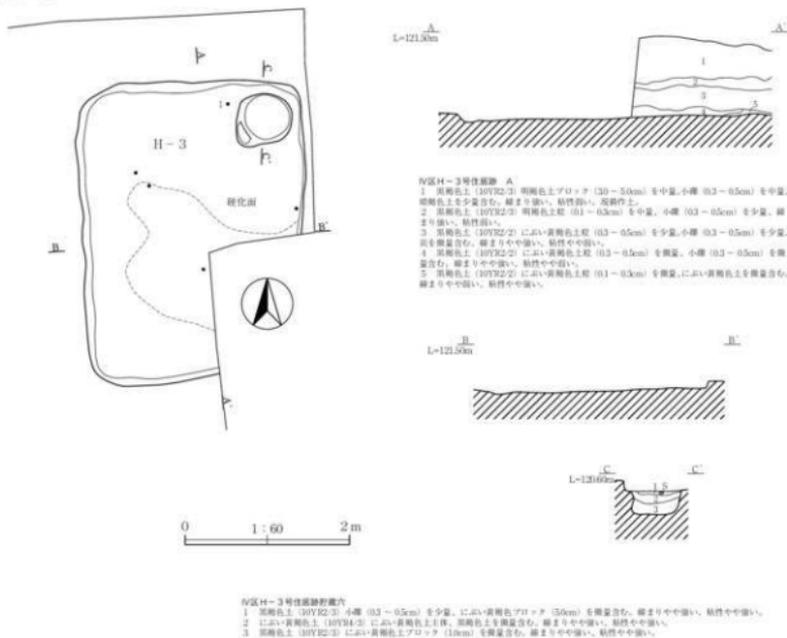


Fig.35 IV区H-3号住居跡

### H-4号住居 (Fig.33・36, PL.10)

位置 X194, Y101・102 規模 東西2.25m (カマドを除く)、南北3.0m、壁現高0.1m。住居の東側約1/2が検出されている。面積 5.54㎡ 床面 締まりやや弱い。重複 住居の東側で、H-5と重複している。新旧完形は、本住居の方が古い。カマド 東側に検出されている。貯蔵穴 検出されなかった。柱穴 検出されなかった。出土遺物 住居の覆土から、土師器坏・土師器甕・須恵器甕等が検出されている。但し、いずれも破片であるため図化せず。時期 出土遺物の傾向から、7世紀代と推定される。

### H-5号住居 (Fig.33・36, PL.10)

位置 X194、Y101 規模 東西1.2m (カマド部含む)、南北3.3m (南北壁)、壁現高0.1m。住居東側(カマド部含む)のみが検出されている。面積 1.13㎡ 床面 締まりやや弱い。重複 住居の東側が、H-4と重複している。新旧完形は、本住居の方が新しい。カマド 住居の東側に検出されている。貯蔵穴 検出されなかった。柱穴 検出されなかった。出土遺物 住居の覆土から、土師質環(かわらけ)・土師質高台平皿・土師質羽釜を図化した。時期 出土遺物の傾向から、10世紀代後半と推定される。

#### IV区H-4・5

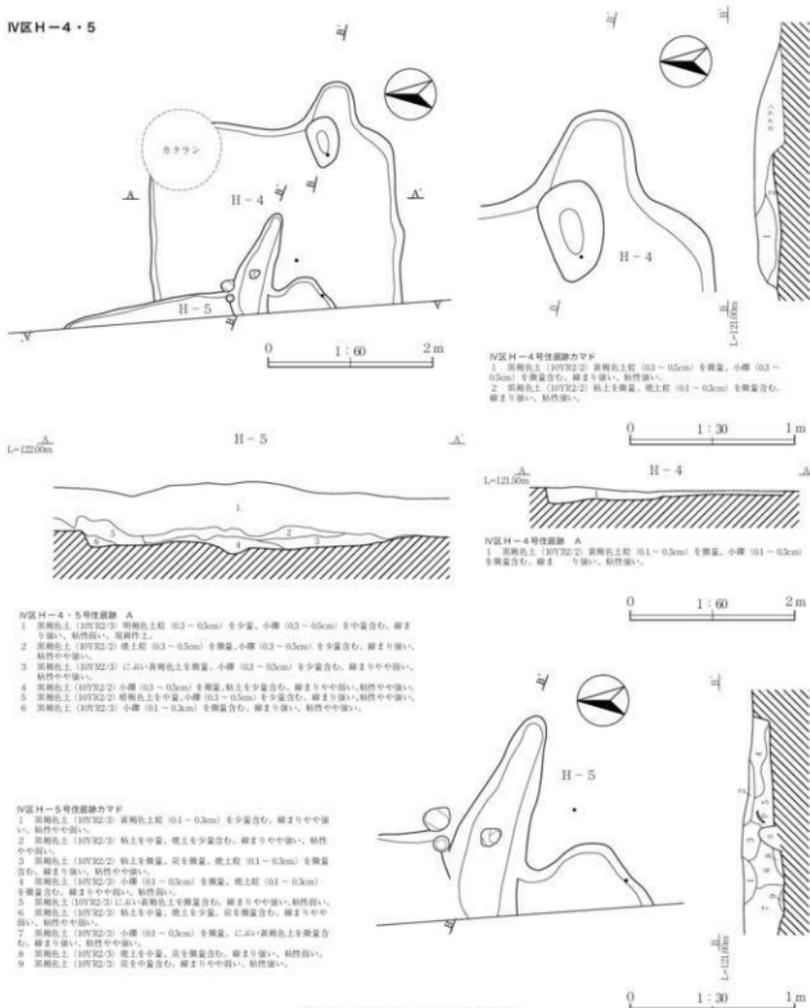
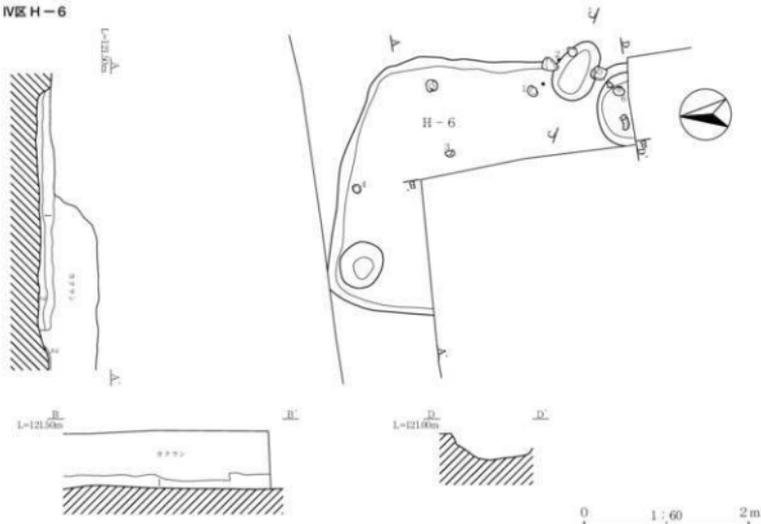


Fig.36 IV区H-4・5号住居跡

### H-6号住居 (Fig.37, PL.10)

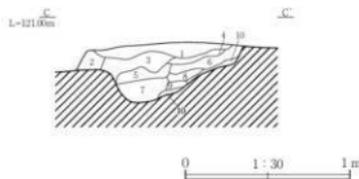
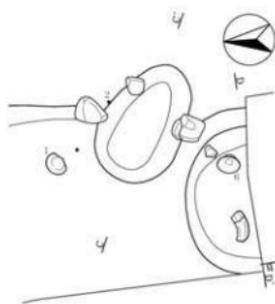
位置 X193・194, Y99・100 規模 東西3.15m、南北3.3m、壁現高0.2m。住居の南東部を除く1/3が検出されている。面積 6.06㎡ 床面 締まりやや弱い。重複 重複は、認められなかった。カマド 東側に検出されている。貯蔵穴 カマドの南、住居の南東隅(推定)で検出されている。柱穴 住居の北西部で1基検出されている。出土遺物 住居の床面から土師質埴・灰釉碗・土師質高台付壺が、貯蔵穴から須恵器高台高台付壺が検出されている。時期 出土遺物の傾向から、9世紀後半と推定される。

#### IV区 H-6



#### IV区 H-6号住居跡 A-A

- 1 黒褐色土 (10YR2/2) 小礫 (0.1~0.3cm) を微量、L-61(黒褐色土)アソフ (L5~20cm) を微量含む。締まり強い、粘性の中強い。
- 2 黒褐色土 (10YR2/2) 小礫 (0.1~0.3cm) を微量含む。締まりやや強い、粘性強い。



#### IV区 H-6号住居跡の方下

- 1 黒褐色土 (10YR2/2) 焼土粒 (0.1~0.3cm) を微量、小礫 (0.3~0.5cm) を少量含む。締まり強い、粘性強い。
- 2 黒褐色土 (10YR2/2) 黒褐色土アソフ (2.0cm) 焼土粒、小礫 (0.3~0.5cm) を微量含む。締まり強い、粘性強い。
- 3 黒褐色土 (10YR2/2) 焼土粒 (0.1~0.3cm) を微量、黒褐色土粒 (0.1~0.5cm) を微量、小礫 (0.1~0.3cm) を微量含む。締まり強い、粘性強い。
- 4 黒褐色土 (10YR2/2) 焼土中量、灰を微量、小礫 (0.1~0.3cm) を微量含む。締まり強い、粘性強い。
- 5 黒褐色土 (10YR2/2) 焼土粒 (0.8~1.0cm) を微量、灰を少量含む。締まりやや強い、粘性強い。
- 6 黒褐色土 (10YR2/2) 焼土粒 (0.1~0.3cm) を微量、灰を少量含む。灰を少量含む。締まり強い、粘性強い。
- 7 黒褐色土 (10YR2/2) 焼土粒 (0.3~0.5cm) を微量、黒褐色土粒 (0.1~0.5cm) を微量、小礫 (0.1~0.3cm) を微量含む。締まり強い、粘性強い。
- 8 黒褐色土 (10YR2/2) 小礫 (0.1~0.3cm) を微量含む。締まり強い、粘性中強い。
- 9 黒褐色土 (10YR2/2) 小礫 (0.1~0.3cm) を微量、焼土粒 (0.1~0.3cm) を微量含む。締まり強い、粘性中強い。
- 10 黒褐色土 (10YR3/4) 小礫 (0.1~0.3cm) を微量含む。締まり強い、粘性強い。

Fig.37 IV区 H-6号住居跡

## (2) 竪穴土坑

竪穴土坑は、1基が検出されている。このTD-1は、H-2の主体部と重複している。新旧完形は、TD-1の方が新しい。東側が調査区外であるため、全容は不明である。時期及び用途も、不明である。

### TD-1 (Fig.33・34, PL.10)

位置 X195・196、Y101・102 長軸[南北] (325) m 短軸[東西] (26) m 深さ 1.5m 平面形状 (方形)  
遺物 覆土から、土師器杯・瓶、須恵器杯・埴・瓶、灰釉碗等が検出されている。土師器杯を図化した。

## (3) 縄文土坑

縄文土坑は、1基が検出されている。このJD-1は、2条の溝(W-1・2)と重複している。新旧完形は、JD-1の方が新しい。南側が調査区外であるため、全容は不明である。時期は、出土遺物から加曾利と推定されている。

### JD-1 (Fig.33・38)

位置 X194、Y102・103 長軸[南北] (23) m 短軸[東西] (2.0) m 深さ 0.8m 平面形状 不整形凹形  
遺物 加曾利浅鉢が検出されている。

#### N区 JD-1、W-1・2

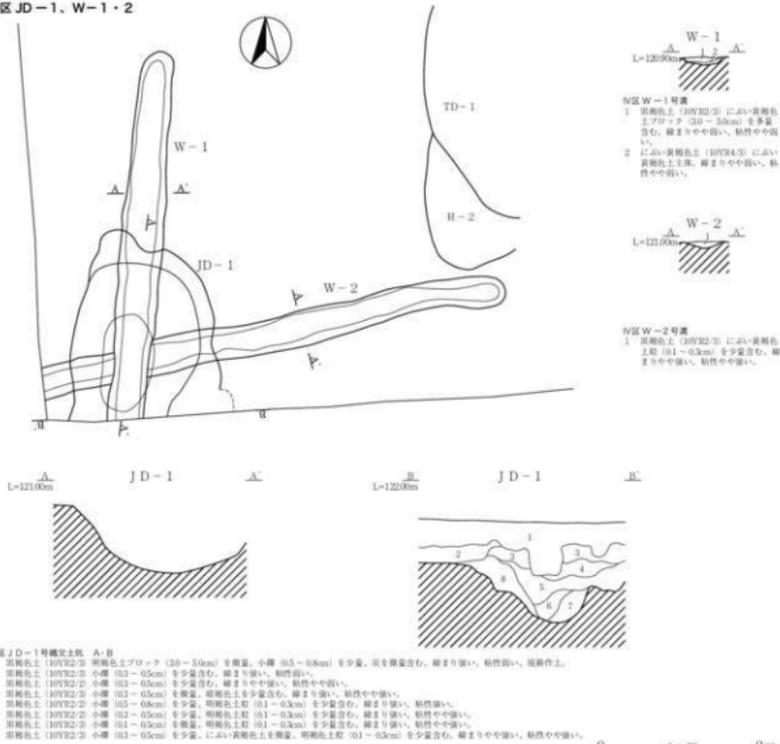


Fig.38 N区 JD-1号縄文土坑、W-1・2号溝



Fig39. IV区 J D-1 出土遺物

1 (1/2)

Tab.7 IV区 J D-1 土坑出土遺物観察表

IV区 J D-1

No	出土位置	種別・器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	胎土	焼成	色調	器形・成・器形、文様等の特徴	損状況・備考
1	覆土	縄文土器 浅鉢	-	-	-	細砂	良好	黄橙 7.5YR 8.8	成状口縁部に平行して約3～4mmの成状沈線。 胴部: 約2mmの成状沈線(上下)。	口縁部片

#### (4) 溝

##### W-1 (Fig.33・38, PL10)

位置 X194, Y102・103 規模 長さ(4.45)m・上幅0.45m・下幅0.35m 形状等 南北方向に走行し、断面弧状を呈する。重複 W-2と交差して重複する。新旧完形は、本W-1の方が新しい。出土遺物 土師器杯・甕、須恵器甕等が検出されているが図化せず。時期 時期の特定には至らなかった。

##### W-2 (Fig.33・38, PL10)

位置 X194・195, Y102・103 規模 長さ(5.6)m・上幅0.45m・下幅0.3m 形状等 東西方向に走行し、断面弧状を呈する。重複 W-1と交差して重複する。新旧完形は、本W-2の方が古い。出土遺物 土師器杯・甕、土師質塊・甕等が検出されているが破片で図化せず。時期 時期の特定には至らなかった。

Tab.8 IV区出土遺物観察表

IV区 H-1

No	出土位置	種別・器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	胎土	焼成	色調	器形・成・器形、文様等の特徴	損状況・備考
1	No1～4, 覆土	土師器 甕	182	-	(97)	微細砂	良好	橙 7.5YR 6.8	外部: 口縁部直上と、胴部へタテナゲナゲに平行して約2mmの成状沈線。 内部: 口縁部直上と、胴部へタテナゲに平行して約2mmの成状沈線。	口縁部一部

IV区 H-3

No	出土位置	種別・器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	胎土	焼成	色調	器形・成・器形、文様等の特徴	損状況・備考
1	No4	土師器 高台付甕	[140]	-	(50)	微細砂 軽石	良好	にぶい黄橙 10YR 7/4	外部: 口縁部ヨコナゲ 以下ロクロ成形後 付け高台 内部: 口縁部ヨコナゲ 以下ロクロ成形	高台左端 1/4 残存
2	覆土	土師質 土釜	[221]	-	(125)	微細砂	良好	橙 7.5YR 7/6	外部: 口縁部ヨコナゲ 以下ロクロ成形後ヘラケズリ 内部: 口縁部ヨコナゲ 以下ロクロ成形後ナゲ	口縁部一部 上半1/5

IV区 H-5

No	出土位置	種別・器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	胎土	焼成	色調	器形・成・器形、文様等の特徴	損状況・備考
1	覆土	土師質 杯	9.1	5.9	2.5	微細砂 軽石	良好	にぶい橙 7.5YR 7/3	外部: 口縁部ヨコナゲ 以下ロクロ成形後 磨止未切り 内部: 口縁部ヨコナゲ 以下ロクロ成形	完形・底部に ひび
2	覆土	土師質 高台付甕	10.8	5.8	24	緻密	良好	にぶい橙 7.5YR 7/4	外部: 歪みが大きい。ロクロ成形 付け高台 内部: ロクロ成形	完形・僅かな ひび
3	覆土	土師質 羽釜	-	-	-	軽石	良好	にぶい橙 7.5YR 6/4	外部: 口縁部ヨコナゲ 胴部ナゲ 付け高台 内部: 口縁部一部ナゲ	破片

IV区 H-6

No	出土位置	種別・器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	胎土	焼成	色調	器形・成・器形、文様等の特徴	損状況・備考
1	No3	灰釉陶器 甕	120	6.8	3.2	緻密	良好	灰白 2.5Y 7/1	外部: 口縁部ヨコナゲ 各部ロクロナゲ 底部割取未切り 内部: 口縁部ヨコナゲ 以下ロクロナゲ	1/4 残存
2	P 1	土師質 土師	11.2	4.2	3.7	雲母含む	酸化焙	橙 5Y 6/6	外部: ロクロナゲ 底部割取未切り	2/3 残存
3	No5	灰釉陶器 高台甕	[124]	[64]	2.5	緻密	良好	灰白	外部: 口縁部ヨコナゲ 各部ロクロナゲ 底部割取未切り	1/2 割残存
4	No6	土師質 高台甕	[146]	[86]	6.3	細砂	やや軟質	明赤褐	外部: ロクロ成形 付け高台 割取未切り	一部欠損
5	貯蔵穴 覆土	須恵器 羽釜	[202]	[76]	26.2	微細砂	良好	明赤褐 10YR 7/6	外部: ロクロ成形 のび後付 胴部ヨコナゲ成形後ナゲ型 磨り 内部: ロクロ成形 成状の付着物	1/3 残存
6	貯蔵穴 No8	須恵器 高台甕	13.5	8.0	5.4	微細砂 軽石	良好	にぶい橙 7.5YR 7/4	外部: ロクロ成形 付け高台 割取未切り 成状の付着物 内部: ロクロ成形 成状の付着物	完形

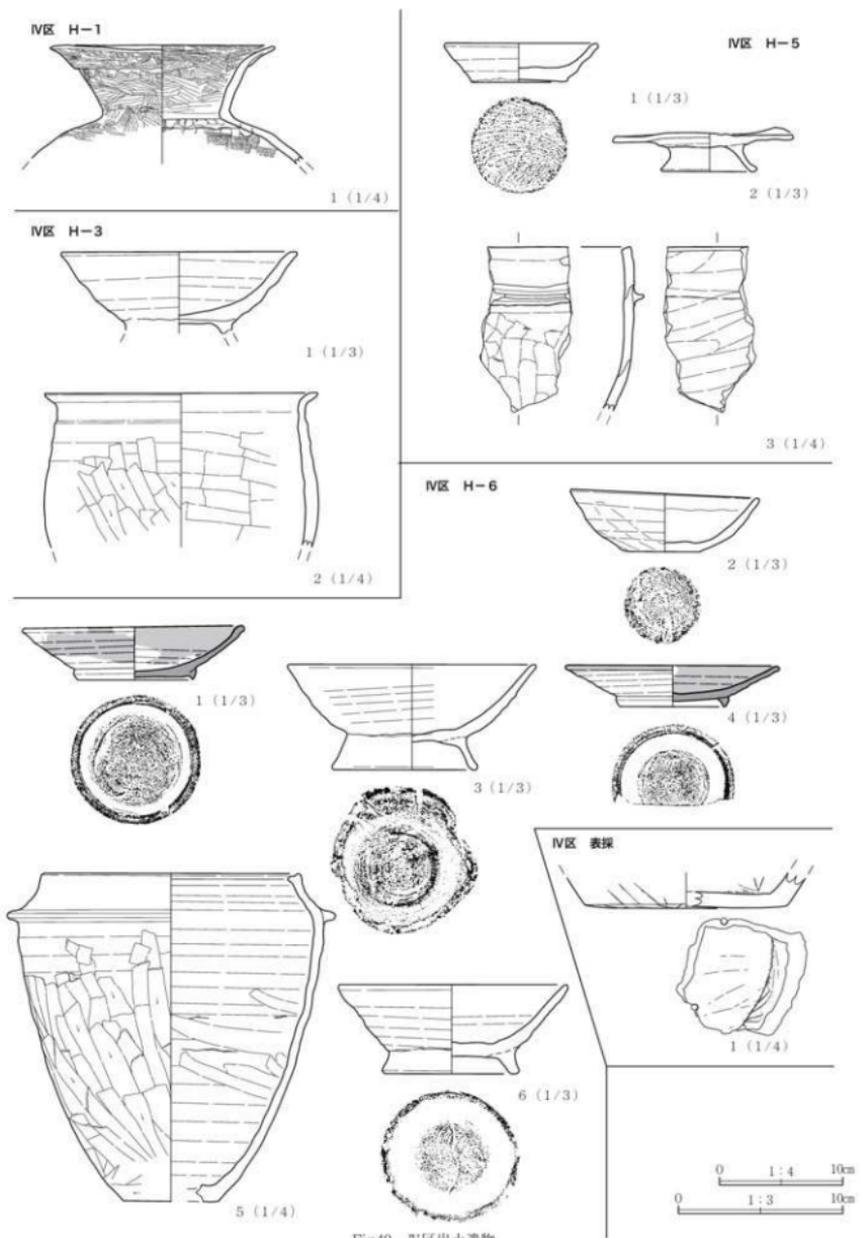


Fig40 IV区出土遗物

## VI 発掘調査の成果と課題

### 1 古代の道

本道跡のⅡ区では、調査区中央を南北に走行する1号道（R-1）が検出された。南北の長さは北部トレンチ部や確認トレンチ部を含むと19.85mであり、東西の幅は約0.8m～4mの規模である。なお、北側断面の観察では側溝のような窪みが認められ、幅は約6mとなる。調査区内の道路面は周辺部の地表から掘りこまれている、切通道である。調査区南部から北部にかけて緩やかに傾斜した状態で、まっすぐ、道跡の北部にある牛池川に向かっていく。調査区南では地表面から約80cmであり、調査区北部では地表面から約170cmである。断面を観察すると、AS-B（浅間B軽石）がレンズ状に堆積しているため、平安後期の1108（嘉承3年～天仁元）年の浅間山噴火の際には道として使用されていなかったことが推定される。本道跡南部に位置する『元総社若海道跡群（30）』で検出された道跡A-1は、本道跡のR-1に続くと推定されるが、7世紀以降と推定されているH4住居と重複するため、時期は7世紀後半以降から1108年と推定される。なお、このA-1には東西に南北の方向で側溝が認められるが北部では途切れた状態である。日本全国で検出されている古代道路の多くには側溝を有する事例が多々あるが、道路遺構に関する著書を持つ近江俊秀によると、側溝は排水の役割ではなく、道路の幅を明示するための施設だったと述べている（近江 2013）。また、古代道路の規模は、東山道の場合、奈良時代の幅12mが、平安時代に9mから6mまで縮小されるという（武部 2015）。

この1号道の硬化面下部には直径2cm～3cmの砂利が敷き詰められており、さらに、道下土坑が4基検出された。なお、道の覆土から8世紀前半と推定される土師器片が検出された。しかし、道路遺構に関する著書を持つ中村太一によると、①道路遺構からは遺物がほとんど出土しない・②遺物が出土してもそれが他の土地からの流入である可能性を想定する必要がある・③路面の中に極めて古い土器が入っていたとしても路面を構築した土砂をどこから持ってきたか問題・④長い間使用された道路には補修の手が入っている可能性が高い等の問題があり、年代決定が困難であると述べている（中村 2000）。なお、1号道の硬化面下部からは道下土坑が4基検出された。日本全国での事例では、波板状凹凸面と呼ばれる状態のものが多く検出されているが、本道跡では土坑状の状態である。これは、平坦な道ではなく緩やかに傾斜しているためと推定され、土坑状のものは傾斜した道で検出されている事例が多い。

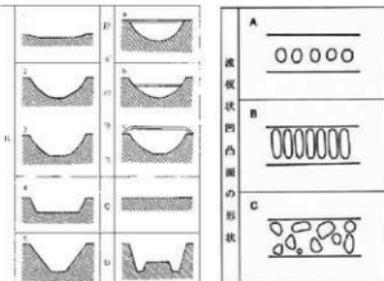


Fig.41 道路遺構分類

Fig.42 波板状凹凸面

先述の近江俊秀による道路遺構分類 [Fig.41 も Fig.42 も近江 (2006) より引用] では、B3タイプであり、波板状凹凸面ではAタイプとなる。近くには東山道も通っているが、東山道が東西方向であるのに対し、本1号道は南北方向である。その角度は、西に10度傾いている状態であるため、その延長線上に位置する山王廃寺に向かう道であった可能性も想定できる。

#### 引用文献〔著者名の五十音順〕

- 近江俊秀 2006 『古代国家と道路：考古学からの検証』、青木書店  
 近江俊秀 2008 『道路誕生：考古学からみた道づくり』、青木書店  
 近江俊秀 2013 『古代道路の謎：奈良時代の巨大国家プロジェクト』、祥伝社  
 木下 真・坂崎秀一編 1994 『季刊・考古学：特集・古代の道と考古学』、第46号、藤山出版  
 (財)群馬県歴史文化財調査事業部編 2002 『田部井大根谷ノ道跡』、(財)群馬県歴史文化財調査事業部  
 武部健一 2015 『道路の日本史：古代駅路から高速道路へ』、中央公論新社  
 中村太一 2000 『日本の古代道路を探る：律令国家のアウトバーン』、平凡社  
 奈良国立歴史民俗学研究所編 1993 『鴨神道跡』（奈良県文化財調査報告書第66集）、奈良国立歴史民俗学研究所

## 2 中世土坑墓

元総社蒼海道跡群（17街区）では、Ⅱ区の1面（中世面）で墓坑群が検出された。時期の特定は困難であるが、少なくとも副葬品の出土銭貨には1点も寛永通宝が認められなかったこと、中世墓に多く認められる板葬や五輪塔が出土したこと、近世から認められる埋葬形態である座葬がなく屈葬であること、火葬跡も群馬県の中世遺構で認められる典型的な形態であることから中世に比定した。墓坑群は、土坑墓25基・火葬跡3基・土坑9基である。土坑では、骸骨が出土した土坑も認められたが人骨が認められない土坑も存在した。しかし、胎児・新生児・小児等、骨が薄くもろいために残存しなかった可能性もあり、墓坑であった可能性も否定できない。これらの墓坑群は試掘調査では確認できなかったものであるが、明治初年の地図には、発掘区内に「阿弥陀寺」の存在が確認されたため、同寺に伴う墓域である可能性が高い。但し、阿弥陀寺は現在廃寺となっており、その建立年代も不明である。

中世墓坑の内訳は、土坑墓25基・火葬跡3基である。これらの合計28基から、25体の人骨が出土した。残念ながら中世墓坑の上部は削平されており、不明な点も多々あるが、多くは頭頂を北側にした屈葬であり群馬県内の典型的な埋葬方法である。同様に、3基の火葬跡も主体部を南北にして東側あるいは西側に袖を持つタイプであり群馬県内の火葬跡の典型的な形をとっている。これら以外に、Ⅱ区確認トレンチ掘削時に近世人骨が1体出土している。本遺跡での特筆すべき土坑として、DB-10出土人骨がある。この土坑の規模は長軸86cm・短軸68cmと小さい。しかしながら、被葬者は30歳代の男性と推定されており、小児ではないためその小さい規模が目立つ。実際、出土人骨は頭部のみで頭蓋骨で、状況からは首塚と推定される。群馬県内におけるこのような事例は、上野国分僧寺・尼寺中間地域のD-1号土坑墓に認められる。平面形態は長楕円形を呈し、長軸78cm・短軸36cmの規模である。被葬者は壮年の女性と推定されている。

群馬県内で検出された中世墓坑で出土人骨数が比較的多くまとまっており、かつ、出土人骨の報告がなされているのを見ると、上野国分僧寺尼寺中間地域遺跡 [15世紀～16世紀]、小八木志良戸遺跡群2区と同4区 [14世紀～16世紀前半]、元総社蒼海道跡群(5) [14世紀後半～15世紀後半] の3遺跡である。これら以外に鳥羽遺跡（中世合計24基：土坑墓23基・火葬跡1基、その他古代土坑墓8基・近世土坑墓3基）や富田遺跡群（中世合計59基：骨蔵器墓5・火葬跡2・火葬墓36・板碑墓7・石塔墓8・その他1）からも多数の人骨が検出されているが、まとめた人骨の報告が無いため除外した。本遺跡では、25体の人骨が出土しているが、調査区のすぐ南にある小見内Ⅲ遺跡6区からは、7基の火葬跡から7体の中世火葬人骨と8基の土坑墓から8体の近世人骨が出土している。本遺跡で中世人骨25体と近世人骨1体、小見内Ⅲ遺跡で7体の中世人骨と8体の近世人骨を合計すると41体となり、中世から近世にかけて大きな墓域を形成していたと推定される。

Tab. 9 群馬県出土中世人骨まとめ表

	元総社蒼海 (17街区)			元総社蒼海道跡群(5)			小八木志良戸遺跡			上野国分寺中間地域		
	本遺跡 合計25体			（昭和 2006） 合計72体			（宮崎 2001ab） 合計65体			（森本他 1986） 合計56体		
	♂	♀	不明	♂	♀	不明	♂	♀	不明	♂	♀	不明
成人	12	6	1	16	22	-	12	22	25	20	22	-
未成年	1	2	2	6	11	5	1	-	3	-	-	4
不明	-	-	1	-	-	12	-	-	2	-	-	10
合計	13	8	4	22	33	17	13	22	30	20	22	14

### 引用文献 [著者名の五十音順]

- 宮崎重雄 2001a 「3-1. 人骨・骸骨について」『小八木志良戸遺跡群2』、(財)群馬県歴史文化財調査事業団  
 宮崎重雄 2001b 「3-1. 人骨・骸骨」『小八木志良戸遺跡群3』、(財)群馬県歴史文化財調査事業団  
 橋岡修一 2006a 「元総社蒼海道跡群5出土人骨：遺構編」『元総社蒼海道跡群5』、前橋市歴史文化財発掘調査団  
 橋岡修一 2006b 「元総社蒼海道跡群5出土人骨：遺構外編」『元総社蒼海道跡群5』、前橋市歴史文化財発掘調査団  
 橋岡修一 2006c 「元総社小見内Ⅲ遺跡出土人骨」『元総社蒼海道跡群5』、前橋市歴史文化財発掘調査団  
 橋岡修一 2006d 「元総社小見内Ⅲ遺跡出土人骨」『元総社蒼海道跡群5』、前橋市歴史文化財発掘調査団  
 森本岩太郎・吉田俊徳・工藤安幸・平田和明 1986 「第6章. 出土遺物の鑑定」『上野国分僧寺・尼寺中間地域1』、(財)群馬県歴史文化財調査事業団



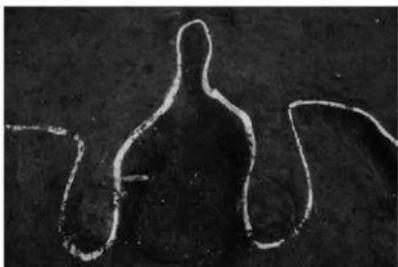
1-1. 1区H-1全景 (南→)



1-2. 1区H-1全景 (西→)



1-3. 1区H-2全景 (西→)



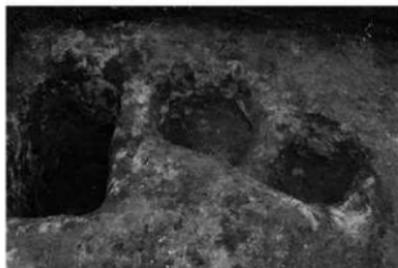
1-4. 1区H-2カマド全景 (西→)



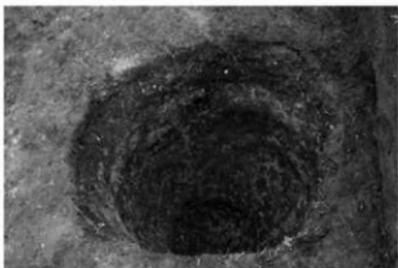
1-5. 1区H-3全景 (東→)



1-6. 1区H-3焼失部材 (南→)



1-7. 1区H-3貯蔵穴 (東→)



1-8. 1区H-3柱穴 (東→)



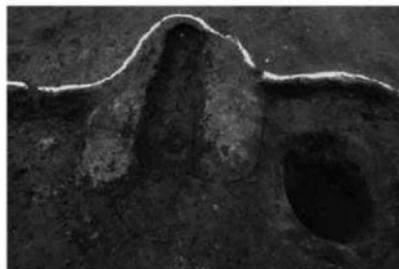
2-1 II区空撮全景(南→)



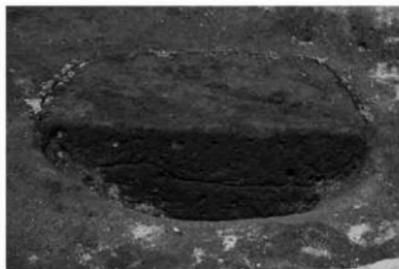
2-2 II区H-1全景(西→)



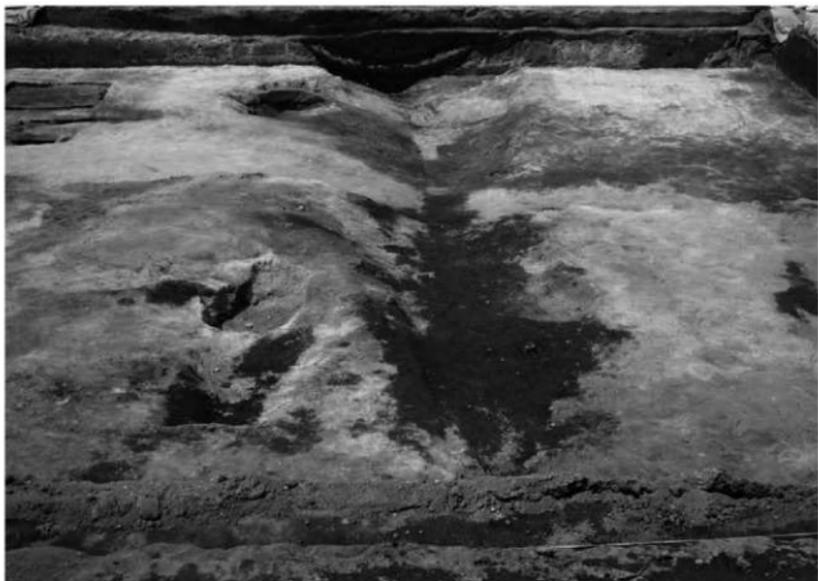
2-3 II区H-1全景(南→)



2-4 II区H-1カマド全景(西→)



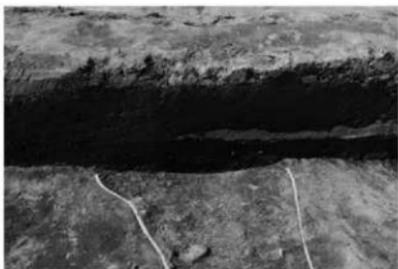
2-5 II区H-1貯蔵穴全景(南→)



3-1. II区R-1全景 (南→)



3-2. II区確認トレンチ部R-1全景 (南→)



3-3. II区確認R-1トレンチ断面 (南→)



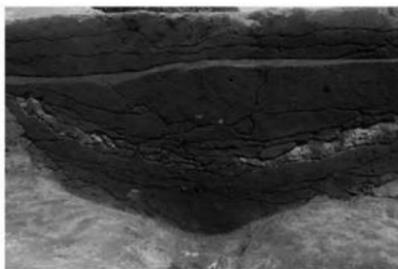
3-4. II区確認トレンチ部D-1全景 (南→)



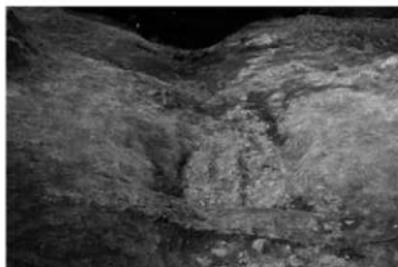
3-5. II区確認トレンチ部D-1近接 (南→)



4-1. II区R-1北壁断面全景(南→)



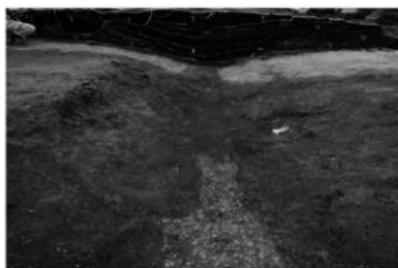
4-2. II区R-1北壁断面近接(南→)



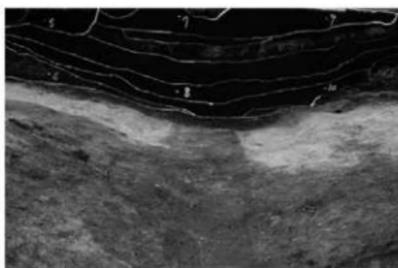
4-3. II区R-1北部遠景(南→)



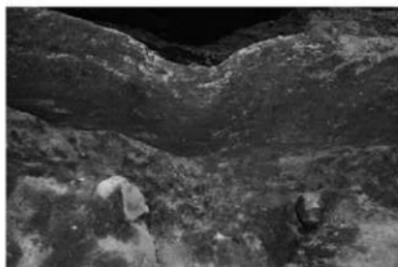
4-4. II区R-1北部石敷近接(南→)



4-5. II区R-1北部遠景(南→)



4-6. II区R-1北部近接(南→)



4-7. II区R-1北部の左右対称の石(南→)



4-8. II区R-1作業風景(南→)



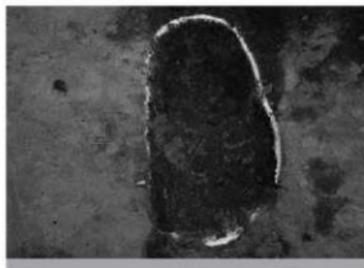
5-1. II区2面R-1掘り方全景 (南→)



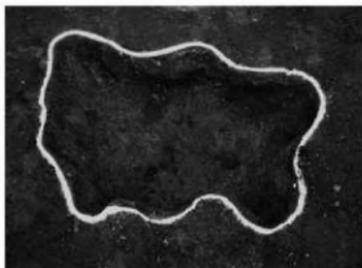
5-2. IIKR-1FD-1 (南→)



5-3. IIKR-1FD-2 (南→)



5-4. IIKR-1FD-3 (南→)



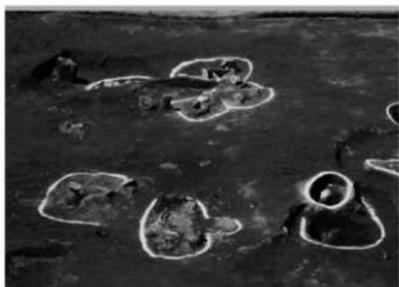
5-5. IIKR-1FD-4 (南→)



6-1. II区1面中世墓坑全景(南→)



6-2. II区1面中世墓坑东部(南→)



6-3. II区1面中世墓坑中央部(南→)



6-4. II区1面中世墓坑中央部北侧(南→)



6-5. II区1面中世墓坑西部(南→)



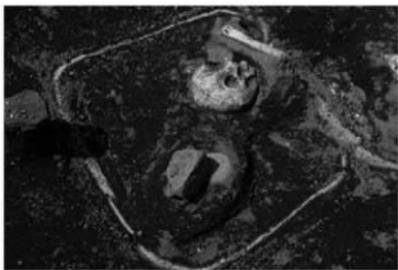
6-6. II区1面DB-1全景(南→)



6-7. II区1面DB-4全景(南→)



7-1. Ⅱ区1面DB-5全景(南→)



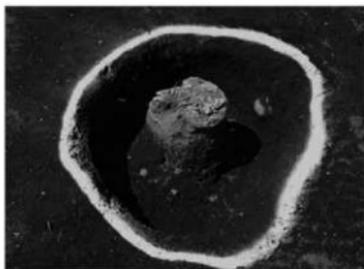
7-2. Ⅱ区1面DB-6全景(南→)



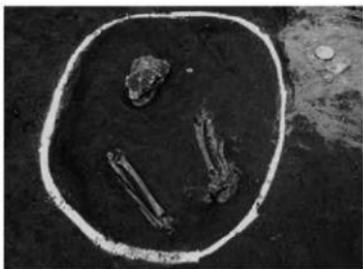
7-3. Ⅱ区1面DB-7全景(南→)



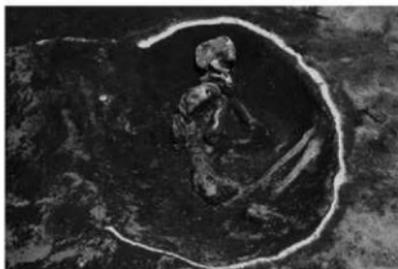
7-4. Ⅱ区1面DB-8全景(南→)



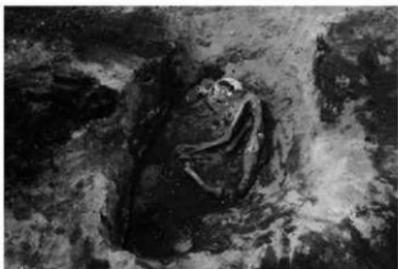
7-5. Ⅱ区1面DB-10全景(南→)



7-6. Ⅱ区1面DB-23全景(南→)



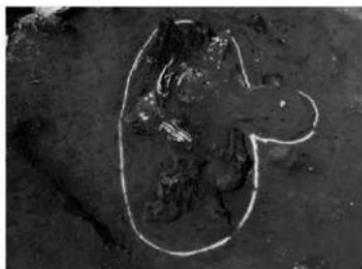
7-7. Ⅱ区1面 DB-25全景(南→)



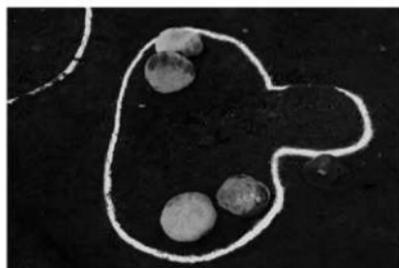
7-8. Ⅱ区1面DB-26全景(南→)



8-1. Ⅱ区1面KB-1全景(南→)



8-2. Ⅱ区1面KB-2全景1(南→)



8-3. Ⅱ区1面KB-2全景2(南→)



8-4. Ⅱ区1面KB-3全景(南→)



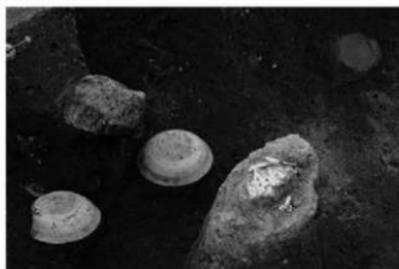
8-5. Ⅱ区1面D-1全景(南→)



8-6. Ⅱ区1面D-1近接1(西→)



8-7. Ⅱ区1面D-1近接2(北→)



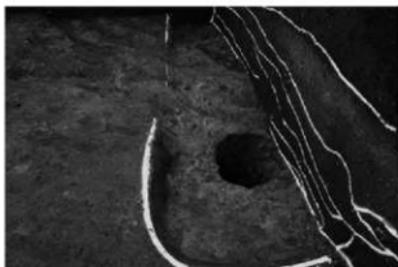
8-8. Ⅱ区1面D-1近接3(西→)



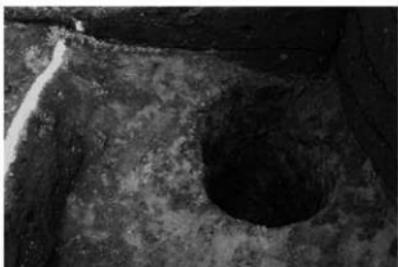
9-1. Ⅲ区全景(南→)



9-2. Ⅲ区H-1全景(西→)



9-3. Ⅲ区H-1全景(南→)



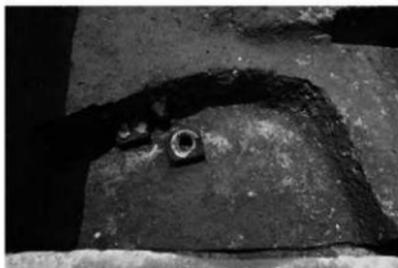
9-4. Ⅲ区H-1柱穴全景(南→)



9-5. Ⅳ区東側全景(南→)



9-6. Ⅳ区H-1全景(南→)



9-7. Ⅳ区H-1全景(東→)



9-8. Ⅳ区H-1全景(西→)



10-1. IV区H-3全景(西→)



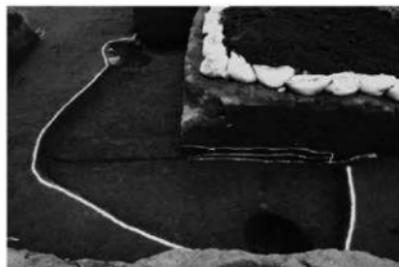
10-1. IV区H-3全景(北→)



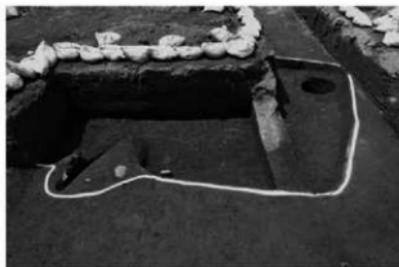
10-3. IV区H-4 [奥]・H-5 [手前]全景(西→)



10-4. IV区H-6全景(東→)



10-5. IV区H-6全景(北→)



10-6. IV区H-6全景(東→)



10-7. IV区W-1 [左]・W-2 [右]全景(南→)



10-8. IV区TD-1全景(西→)



A1 : I区H-2-1



A2 : I区H-2-2



A3 : I区H-2-3



B1 : I区H-3-2



B2 : I区H-3-4



B3 : I区H-3-3



B4 : I区H-3-1



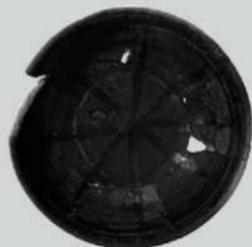
C1 : I区表採-1



C2 : I区表採-2



C3 : I区表採-3



D-1-11とD2 : II区確認トレンチD-1



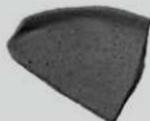
E1 : II区DB-1-2



E2 : II区DB-1-1



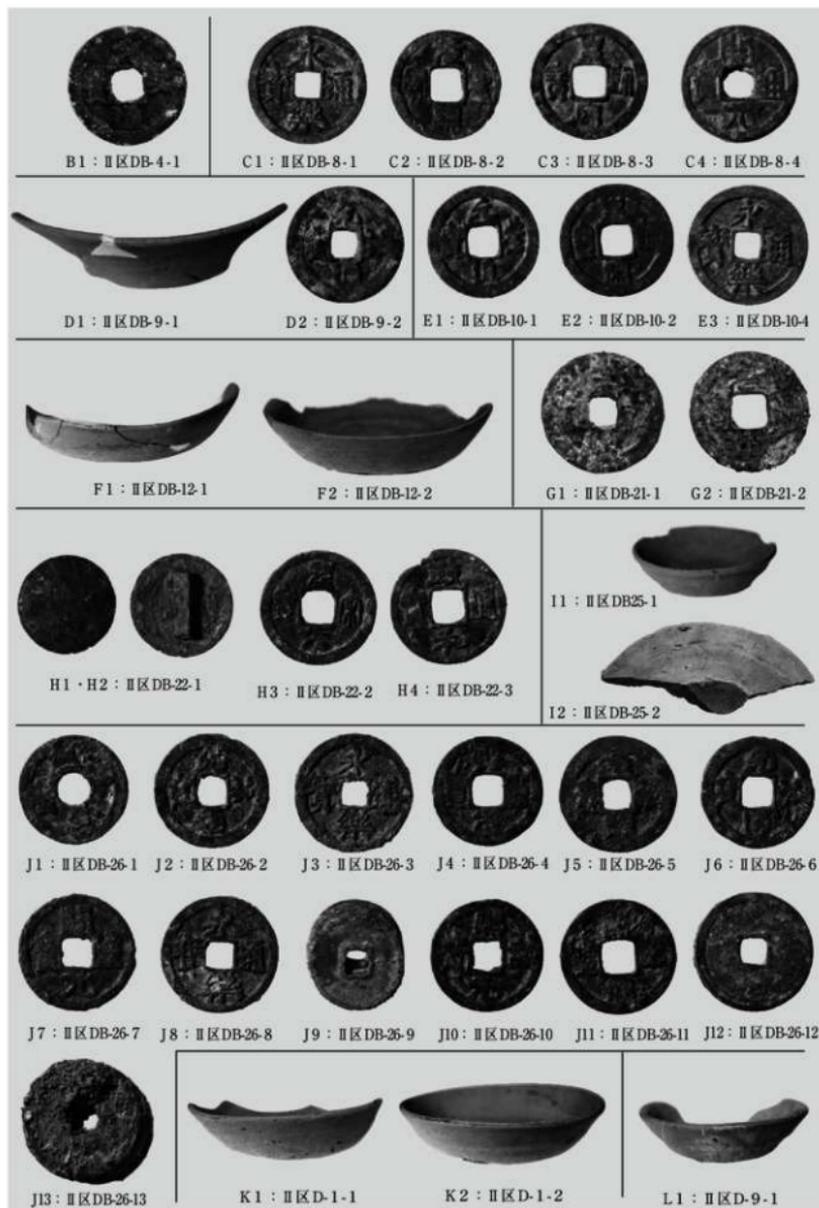
E3 : II区DB-1-3

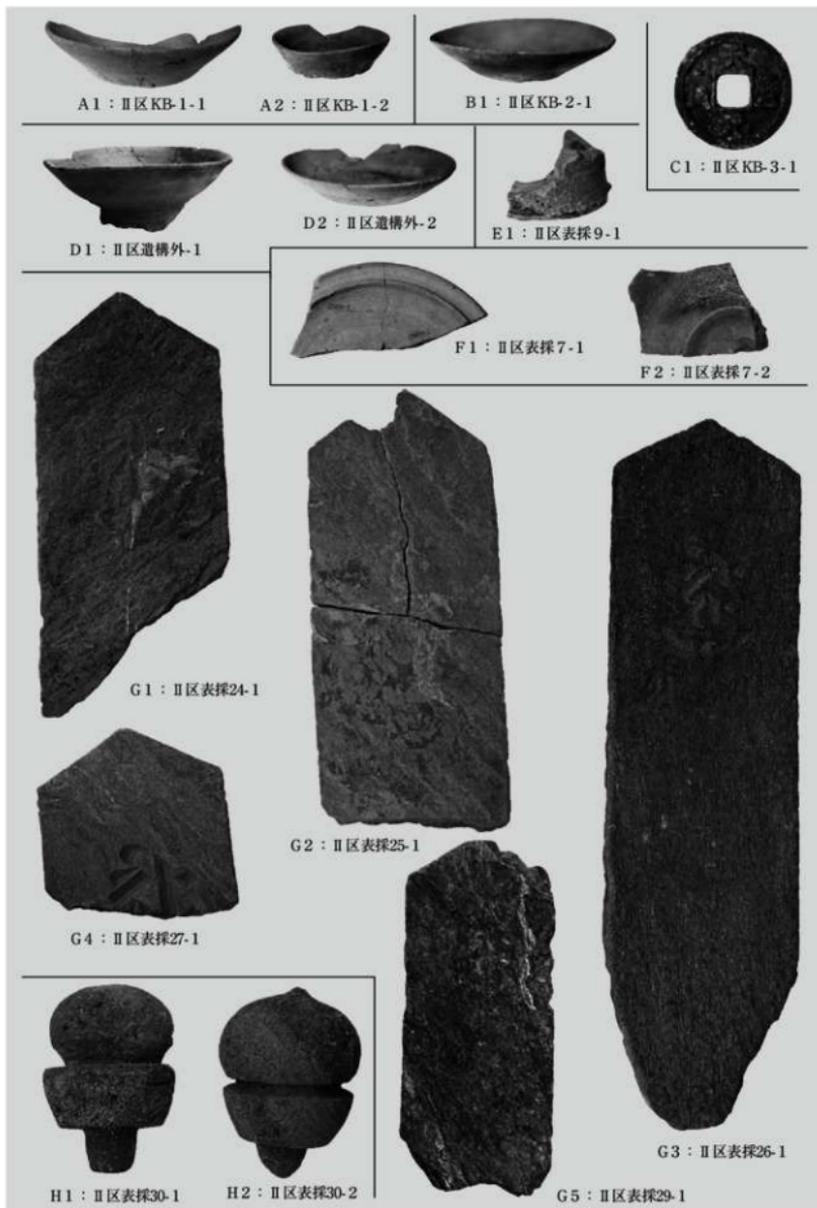


F1 : II区R-1-1



G1 : II区DB-3-1







## 報告書抄録

カタカナ	モトソウジャオウミイセキケン (17ガイク)
書名	元総社蒼海遺跡群 (17街区)
副書名	JX日鉱日石エネルギー株式会社店舗建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	-
シリーズ名	-
シリーズ番号	-
編著者名	藤坂和延・橋崎修一郎
編集機関	技研コンサル株式会社
編集機関所在地	〒371-0031 群馬県前橋市下小出町1丁目15番地3
発行機関	前橋市教育委員会
発行機関所在地	〒371-0853 群馬県前橋市総社町3丁目11番地4
発行年月日	2016年1月29日

フリガナ	フリガナ	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経			
元総社蒼海遺跡群 (17街区)	前橋市元総社町 1804-1・1803、 同総社町 3097・3098	102021	0142	36°39'34"	139°03'93"	20150629 ～ 20150821	595.72㎡ (539.12㎡ +56.6㎡ (確認ト レンチ))	JX日鉱日石エ ネルギー株式会 社店舗建設に伴 う埋蔵文化財発 掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
元総社蒼海遺跡群 (17街区)	集落跡・ 道跡・墓坑	古墳～平安 中世	堅穴住居跡 11軒 道 1条 土坑墓 21基 火葬跡 3基 土坑 17基	かわらけ・須恵器・ 土師器・灰軸陶器・ 銭貨・五輪塔・板碑	古墳～平安時代の集落遺跡 古代の道 中世の土坑墓

### 元総社蒼海遺跡群 (17街区)

JX日鉱日石エネルギー株式会社店舗建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2016年1月25日 印刷

2016年1月29日 発行

発行

前橋市教育委員会文化財保護課

〒371-0853 群馬県前橋市総社町3丁目11番地4

TEL 027-280-6511

編集

技研コンサル株式会社

印刷

朝日印刷工業株式会社